ISSN 2188-2525

蔵王町文化財調査報告書 第 22 集

蔵王町内遺跡発掘調査報告書 4

各種開発事業に伴う遺構確認調査（平成 27 年度）

古峯神社古墳 2 トレンチ

西屋敷遺跡
古峯神社古墳
小原遺跡

2017 年 3 月

宮城県刈田郡蔵王町教育委員会

蔵王町文化財調査報告書 第 22 集

蔵王町内遺跡発掘調査報告書 4

各種開発事業に伴う遺構確認調査（平成 27 年度）

西屋敷遺跡
古峯神社古墳
小原遺跡

2017 年 3 月

宮城県刈田郡蔵王町教育委員会

序　文

蔵王連峰の東麓に抱かれた蔵王町には、蔵王火山の造り出した変化に富む地形・地質と、四季折々の豊かな自然に育まれた山麓文化が息づいています。蔵王の山と、そこに暮らす人々が創り出した蔵王山麓の風景は、私たち町民の誇りであると同時に、将来へ守り伝えるべき大切な財産でもあります。

蔵王町には約 200 か所の遺跡が発見されており、先人の生活文化を伝える貴重な文化遺産として保護されています。遺跡は、古文書などの文字資料だけでは知ることのできない地域の実情や、まだ文字がなかった時代の人びとの暮らしぶりを、私たちにありのままに教えてくれるものです。

一方で、町内各所の地中に埋もれている遺跡は、様々な開発による破壊の危機にさらされています。このため当教育委員会では、遺跡地図の公開などで遺跡の所在を周知するとともに、開発との関わりが生じた場合には宮城県教育委員会と連携して遺跡の保護に努めています。

本報告書には、平成 27 年度に各種開発事業計画と遺跡の関わりを確認するために実施した遺構確認調査の結果を収録しています。このうち、作業道建設工事計画に伴なって調査を実施した古峯神社古墳では墳丘裾の平坦面を確認し、遺構の保存に影響を与えないようルートの変更にご協力いただきました。

先人たちの残した貴重な文化遺産を保護し、活用を図りつつ未来へ継承していくことは、現代を生きる私たちに課せられた責務です。蔵王山麓の歴史や文化遺産は、蔵王町に息づく山麓文化の根底となるものであり、現代社会において求められている地域色豊かなまちづくりにとっても欠くことのできないものであります。本報告書にまとめられた学術的成果が広く町民の皆さまや各地の研究者に活用され、地域の歴史解明の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、各種開発事業主の方々には、遺跡保護の重要性について深いご理解を賜り、事業計画との調整や遺跡調査の実施等にご協力いただきました。また、調査の実施と本報告書の作成に際して、多くの方々にご指導とご協力を賜りました。ここに心より深く感謝申し上げ、序といたします。

平成 29 年 3 月

蔵王町教育委員会
教育長　佐 藤 茂 廣

例　言

1．本書は、蔵王町教育委員会が埋蔵文化財保護調整事務の一環として平成 27 年度に実施した発掘調査の成果をまとめたものである。
2．本書で報告するのは、下記の発掘調査の成果である。
　各種開発事業と遺跡の関わりの詳細を確認する目的で実施した遺構確認調査（西屋敷遺跡・古峯神社古墳・小原遺跡）
3．本発掘調査とその整理・報告書作成作業は、町単独事業として蔵王町教育委員会が実施し、生涯学習課文化財保護係が担当した。
　平成 28 年度の職員体制は下記のとおりである。
　教育長　佐藤 茂廣　　生涯学習課長　我妻 清志　　課長補佐　日下 朝男
　主幹兼文化財保護係長　佐藤 洋一　　主査　鈴木 雅
　文化財専門臨時職員　庄子 善昭　我妻 なおみ　鈴木 和美　江尻 祥子
　文化財室内整理作業員　我妻 英子　岩佐 若奈　大沼 恭子　加藤 幸子　菅野 慶一　佐藤 かおる　佐藤 貴美子　松崎 祐二　松田 律子
　　渡部 真理
5．本発掘調査の整理作業にかかる遺物実測と遺構・遺物図のデジタルトレースは鈴木雅、遺物写真撮影は庄子善昭が担当した。
6．本書の執筆・編集は鈴木雅が担当した。
7．本発掘調査の写真・図面等の記録資料と出土遺物は、蔵王町教育委員会が一括して永久保管している。

凡　例

1．本書に掲載した遺跡分布図・位置図、調査区配置図・遺構平面図の方位は座標北を示している。
2．本書に掲載した遺跡分布図・位置図は下記の図幅を使用して作成した。
　「蔵王町の地形区分と遺跡の分布」（第 6 図）
　　：5 万分の 1 都道府県土地分類基本調査　地形分類図「白石」（宮城県、昭和 58 年調査）
　「蔵王町遺跡地図・協議箇所位置図」（第 7 図）、「調査地点位置図」（第 8・11・15 図）
　　：電子地形図 25000（国土地理院、自由図郭版・平成 24 年図式・平成 28 年 6 月 13 日調製）
3．トレンチ配置図・遺構配置図に記載した現況 GL からの深度は、掘削したトレンチ底面の深度であり、遺構残存面と一致しない場合がある。
4．土層の記述で、ローム質層の上部で確認されるしまりのない褐色系シルトを褐色森林土、黒色系シルトを黒ボク土と記載した。褐色森林土は本州地域の森林を広く覆う成帯性土壌であり、黒ボク土はこれに草原植生下で局所的な条件が加わった成帯内性土壌である（細野 1994）。いずれも第四系の最上位層を構成する未成熟な堆積層であり、整合状態の堆積条件下では下位のローム質層に漸移する。
5．土色の記述は、「新版　標準土色帖（2005 年版）」（小山・竹原 1967）を参照した。
6．遺構・遺物実測図の縮尺は、それぞれ図中にスケールを付して示した。
7．遺構実測図では、下記の表現方法（パターン）を使用して記載した。
　撹乱範囲▨：確認した範囲にパターン表示（断面図）
8．遺物観察表では、下記の表記方法を使用して記載した。
　製作工程：調整・加工の痕跡に前後関係が確認でき、痕跡 A より痕跡 B が新しい「A → B」、新旧不明：「A・B」
　計 測 値：残存値である場合は（　）を付した。
9．報告書抄録に記載した各遺跡の緯度･経度は､地理院地図（http://maps.gsi.go.jp/）で取得した調査地点付近の参考値（世界測地系）である。
10. 引用文献および執筆にあたり参考にした文献・報告書については巻末に一括して掲載した。なお、蔵王町文化財調査報告書については巻末に一覧を掲載し、本文中の引用箇所では「町 20 集」のように省略して記載した。

目　次

序　文
例　言
凡　例
目　次

第１章　蔵王町の環境と遺跡 …… 1

第２章　平成 27 年度の遺跡調査概要 …… 9

第３章　調査の成果 …… 17

第１節　遺構確認調査 …… 17
１．西屋敷遺跡　（集落道路改良工事計画） …… 17
２．古峯神社古墳　（作業道建設工事計画） …… 20
３．小原遺跡　（太陽光発電所設置工事計画） …… 26

第４章　総括 …… 28

参考・引用文献
報告書抄録

第１章　蔵王町の環境と遺跡

１．蔵王町の位置と自然環境

（１）地形・地質

蔵王町は宮城県南西部にあり、奥羽山脈に連なる蔵王連峰の東麓に位置する（第１・２図）。町域は東西23km、南北 13km で面積は 152.85km^2 を占め、海抜標高は最高点が西端の屏風岳で 1,825m、最低点が南東部の松川と白石川の合流点で 20m を測る。

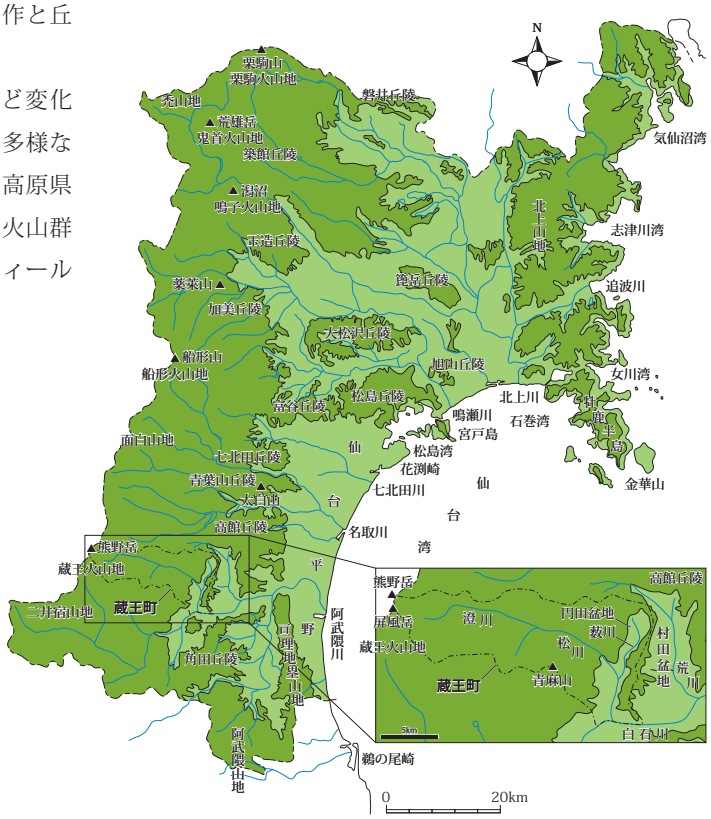
町域の６割を山林原野が占めており、西部は高原・山岳地帯、東部は平野・丘陵地帯である。西部は蔵王火山の活動による溶岩台地が発達し、火砕流堆積物からなる扇状地地形も見られる。東部の松川流域には盆地や段丘群が形成されており、沖積平野での稲作と丘陵部での果樹栽培が盛んである。

蔵王連峰は、火口湖（御釜）・渓谷・湿原など変化に富んだ地形を擁し、高山植物をはじめとする多様な動植物が生息・生育する。蔵王国定公園・蔵王高原県立自然公園の指定地域となっているほか、成層火山群の活火山である蔵王火山は地質学的に貴重なフィールドとして「日本の地質百選」に選定されている。

蔵王連峰から東流する松川は、独立峰をなす青麻山の東麓で流路を南へ向けて白石川に注ぐ。町域の東部では２～３段のやや広い段丘面を形成し、北東部では支流の藪川流域に円田盆地を擁する（第６図）。

円田盆地は東西 1.2km、南北 3.5km の底面を持ち、南を除く三方を丘陵で画されている。盆地北側から西側にかけては高木丘陵、東側は愛宕山丘陵と通称されている。盆地内を蛇行しつつ南流する藪川は自然堤防が未発達で、流域に湿地帯を形成している。

第１図　蔵王町の位置



第２図　蔵王町と周辺の地形

（２）気候

宮城県地方の気候区分は、全体としては温帯湿潤気候に属する。温帯湿潤気候では、平均気温が最寒月でマイナス３度以上、最暖月で 22 度以上で四季の変化が明瞭であり、夏に高温多雨となる。宮城県地方はこうした気候の北限に近く、海抜標高が 500m を越すと、最寒月の平均気温はマイナス３度以下となり、亜寒帯気候の様相を帯びる。夏季の平均気温は最暖月の８月で 25 度前後のところが多い。降水量は、年間の平均値が仙台で 1,392 ミリ、西部山地で 2,000 ミリ前後である。積雪日数は、海岸部で 30 日以下、中央部で 50 日程度、西部山間部では 90 日以上に及ぶ。

県南部では、沿岸部は海洋性気候の影響が強く、年較差、日較差ともに小さい。夏季は冷涼、冬季は緯度の割には温暖であり、福島県浜通りの気候の延長線上にある。一方、蔵王町を含む西部内陸方面は福島県中通りの気候の延長線上にあり、より寒冷で積雪も多く、豪雪地帯に指定されている。

（３）動植物相

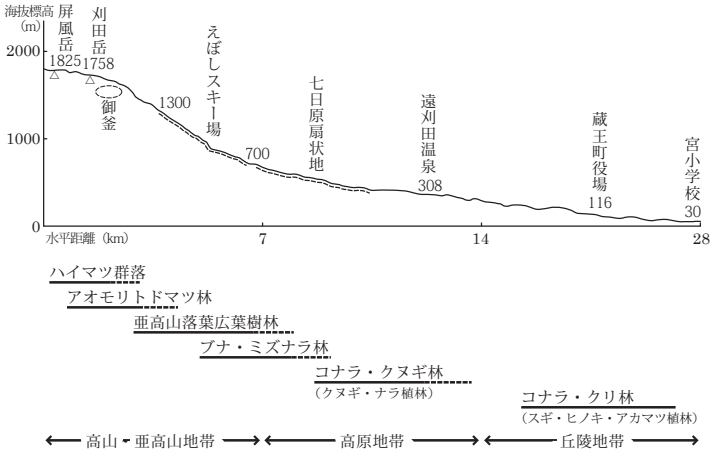
町域の東部は古くから人間活動の場として開発され、青麻山以東の平野・丘陵地帯を中心に水田・畑地などの農耕地が開けている。丘陵地帯では、かつては薪炭材などとして盛んに利用され、萌芽再生によって維持された里山の雑木林に特有のコナラ・クリ林が優勢であった（第３図）。現在はこれらの伐採が進んでスギ・ヒノキ・アカマツが植林されたり、果樹園が開かれてモザイク状の分布を形成している。

高原地帯も遠刈田温泉から七日原にかけてはコナラ・クヌギ林が優勢であったが、伐採が進んで草原となった後は厳しい気象条件により植生が回復せず、クヌギ・ナラなどの植林が行なわれている。烏帽子岳中腹にかけては冷温帯落葉広葉樹林の山地帯で、広大なブナ・ミズナラ林が形成されている。

西部の亜高山帯では、常緑針葉樹林のアオモリトドマツ林が広大な森林を形成している。屏風岳東面の断崖には亜高山落葉広葉低木林が分布する。

さらに高度を増した高山帯では高木の生育は見られず、ハイマツ低木林が分布する。火山荒原となる山頂付近ではガンコウラン・イワカガミなどの高山植物がカーペット状の群落を形成し、砂礫地にはコマクサも見られる。

こうした森林地帯の植物相を背景として、町内には大型獣のニホンツキノワグマ・ニホンカモシカ、中小型獣のホンドタヌキ・ホンドギツネ・トウホクノウサギ・ホンドリス・ホンドイタチ・オコジョ・ムササビ・ネズミ類・モグラ・ヤマネ・コウモリ類などの哺乳動物をはじめとする多様な動物が生息している。



第３図　蔵王町の東西模式断面と植生の垂直分布

２．蔵王町の歴史的環境と遺跡の概況

（１）歴史的環境

蔵王町と七ヶ宿町からなる刈田郡は、かつては白石市を含む宮城県南西部の広い地域を占めていた。この刈田・白石地方の地形がつくりだす景観について「刈田郡誌」では「郡下到るところ連丘連山起伏し、谿谷渓流を見る。この一圓の水を聚めて阿武隈川に運ぶもの即ち水清く、石白き白石川にして、其本流支流に沿って、管内各村を往訪すべき諸道開けたり…」と記している（刈田郡教育会 1928）。

蔵王東麓の広大な山地・丘陵と、これを隈なく開析する大小の河川は、多種多様な動植物を生息・生育させ、先史時代には人類の豊かな生活基盤となっていたことが濃密な遺跡分布から窺える。このような複雑な地形環境から、歴史時代には軍事上の要衝地域として数多くの城館が構築され、しばしば戦乱の舞台ともなったが、一方で土着の耕作者にとっては耕地が狭小である上に低地は洪水の常襲地帯で、時折集落や耕地の流失もあり、交通の難所でもあった。

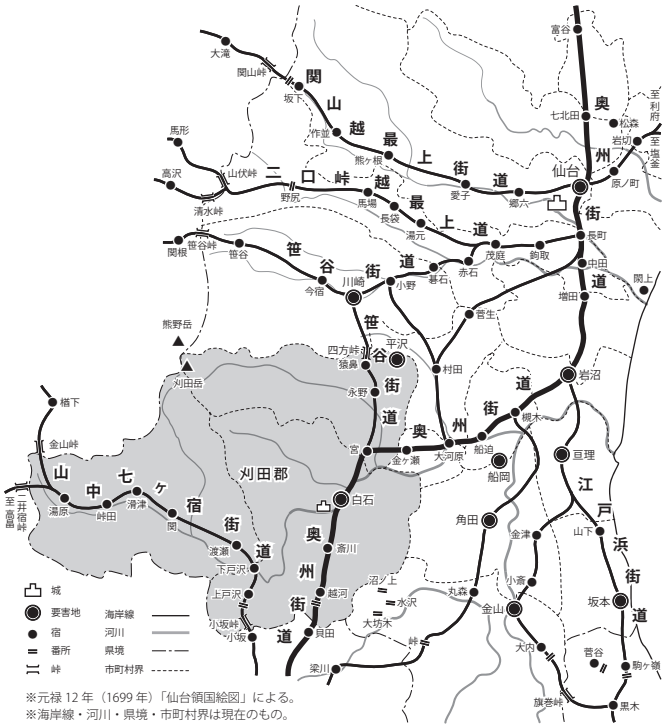
刈田郡に関する最古の記録は、「続日本紀」に記された養老５年（721 年）の陸奥国苅田郡建置に関する記事である。これによると苅田郡は柴田郡のうち二郷を分割して設置され、仙南地方では最も遅い建郡であった。陸奥国は７世紀半ばに亘理・伊具地方を北辺として成立し、７世紀後半頃には大崎平野周辺までその範囲を広げていたと考えられている。このため、柴田・刈田郡周辺は陸奥国成立後の早い段階で律令政府の安定した統治下に置かれていたであろう。

平安時代末期には奥州藤原氏の支配下にあったとみられ、丈六阿弥陀如来坐像を安置する阿弥陀堂が建立された。また、奥州合戦について「吾妻鏡」の伝えるところでは、文治５年（1189 年）に藤原泰衡軍は刈田郡根無藤（蔵王町円田）に城郭を構え、四方坂（同平沢）との間で源頼朝軍と進退七度に及ぶ戦いの末に敗退したという。このことから、この地域が軍事上重要視されており、根無藤から四方坂を経る道筋が、出羽国へ至る出羽道の一部であったことが窺える。

鎌倉時代以降は白石氏（刈田氏）が刈田郡の中心勢力であった。白石氏は南隣の伊達郡を本拠とする伊達氏との関係が深く、戦国時代には伊達氏の傘下に組み込まれた。天正 18 年（1590 年）に豊臣秀吉による

奥州仕置で刈田郡は伊達領と確定されたものの、翌年の再仕置で伊達政宗が岩出山城へ移封され、刈田郡は長井・信夫・伊達などの各郡とともに会津黒川城に入封した蒲生氏郷に与えられた。慶長３年（1598 年）には蒲生氏に代わって会津に入封した上杉景勝の領地となり、家臣甘粕備後景継が白石城主となったが、政宗は慶長５年（1600 年）に徳川家康の意を受けて上杉氏を抑えるため白石城を攻めて奪還し、刈田郡は伊達氏の所領となった。政宗は慶長７年（1602 年）に重臣・片倉景綱を白石城主とし、西南の固めを任せた。以後は代々片倉氏が白石城主を務め、江戸時代を通じて刈田郡の過半は片倉氏の知行地であった。

江戸時代には奥羽山脈を挟んで陸奥国を奥州街道、出羽国を羽州街道が縦貫しており、刈田郡内にも奥州街道が白石城下を通過していた。また、奥州街道の宮宿（蔵王町宮）から分岐して永野宿・猿鼻宿・四方峠（蔵王町円田）を経由し、笹谷峠を越えて山形の羽州街道へ抜ける笹谷街道も設けられていた（第４図）。



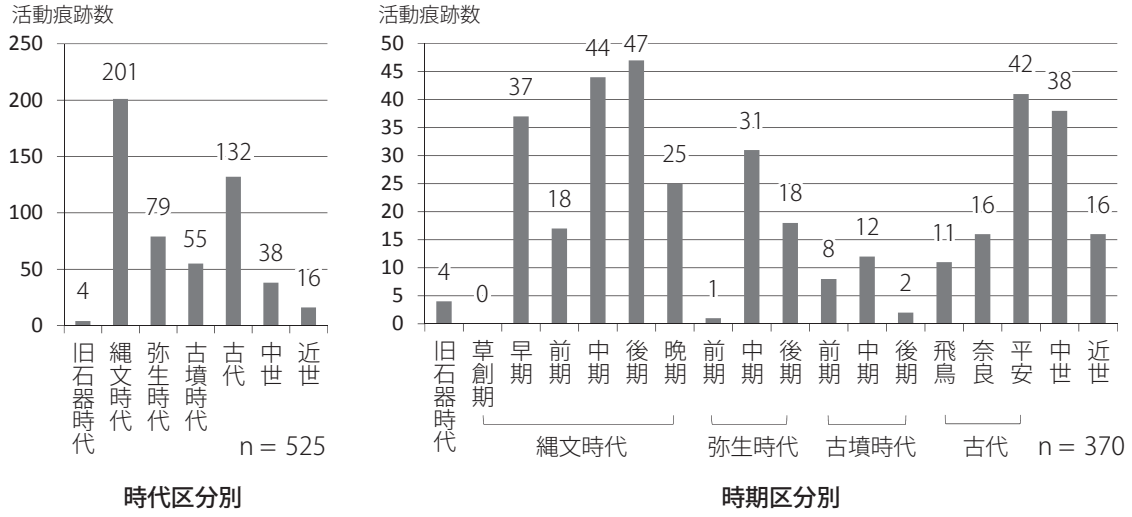
第４図　刈田郡周辺の街道（風間 1983 原図）

（２）遺跡の概況

蔵王町内における周知の遺跡は現在 202 か所を数える（第６・７図、第２表）。その多くは町域東部の平野・丘陵地帯に分布し、①青麻山東麓の丘陵と段丘上、②松川北岸の段丘と支流の高木川流域の丘陵上、③円田盆地に接する丘陵上に集中域を形成する。なお、町域西部の高原地帯では七日原扇状地の扇端部に少数の遺跡が分布する。これらの遺跡のほとんどは、複数の時代や時期区分に比定される活動痕跡が重複する複合遺跡であるが、時代や時期ごとの分布には一定の傾向が認められ、主に生業形態の変化を反映している。

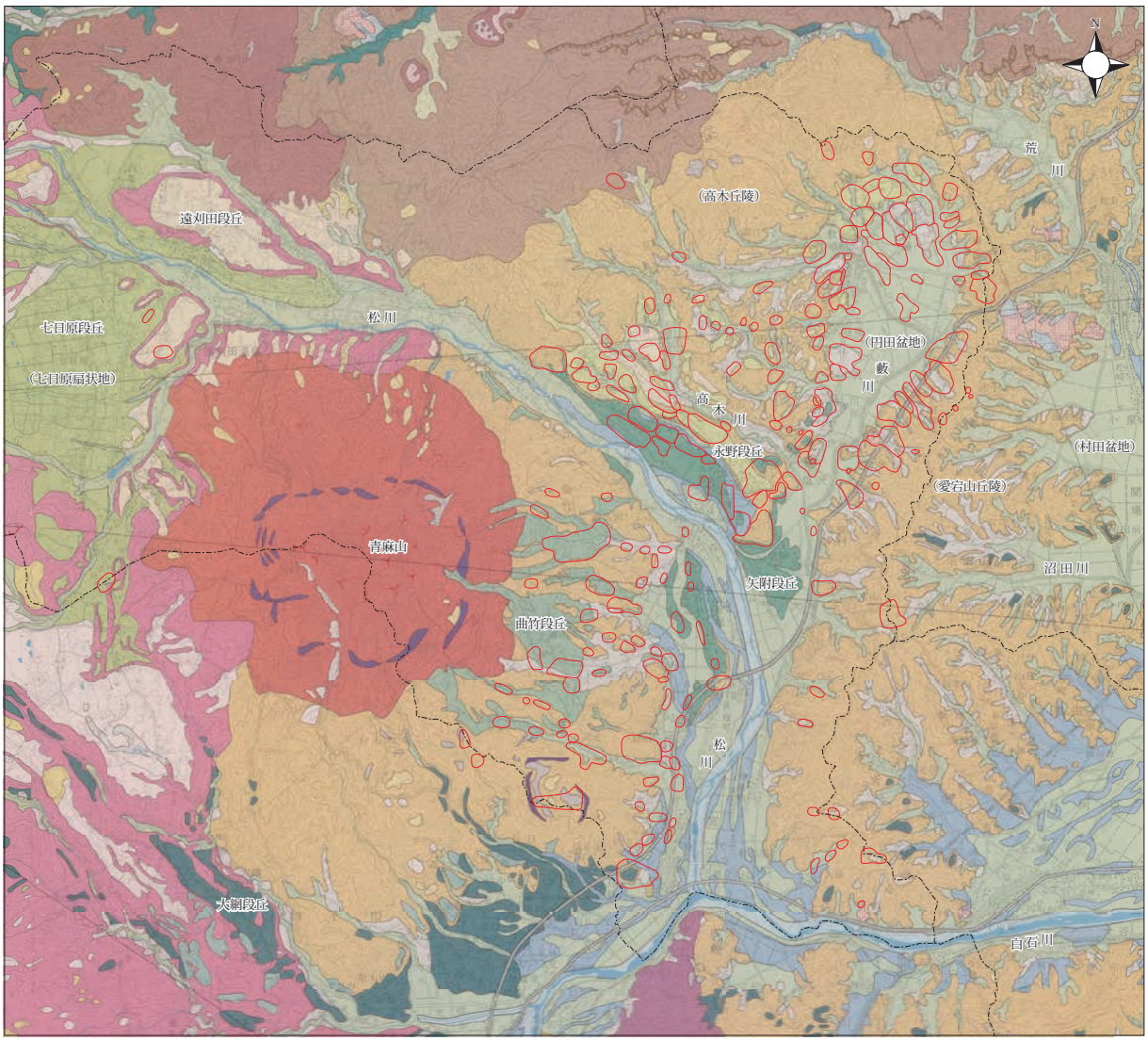
各遺跡に残された活動痕跡を時期区分別に集計するとその総数は 525 か所を数え、時代・時期ごとの人間活動の動態を窺い知ることができる（第５図）。

旧石器時代から縄文時代草創期にかけての活動は低調であるが、縄文時代早期になると激増する。前期には半減するが中期に再び増加傾向を示し、後期には活動痕跡が最多となる。晩期には再び半減し、弥生時代前期の活動は低調である。中期には回復するが、その後は段階的な減少傾向が見られ、古墳時代後期の活動は低調である。飛鳥時代以降、再び活動は活発化するが、平安時代の活動痕跡はほとんどが９世紀代に比



※各時代・時期区分の時間幅は均等ではない。※時期区分が不明な活動痕跡があるため、時期区分別の合計と時代別の合計は一致しない。

第５図　蔵王町の遺跡における活動痕跡の動態



山地及び丘陵地

（蔵王火山）
- 山麓丘陵地

（青麻火山）
- 山地
- 尖頂峰
- 火山性急崖

（非火山性山地）
- 奥羽山脈の山地（峩々）
- 大鳥谷山地
- 山頂平坦地（大森付近）
- 大萩山山地

（非火山性丘陵地）
- 高い丘陵地
- 低い丘陵地
- 頂部平坦地
- 高位谷底
- 旧火山性急崖

低地
- 河岸平野・谷底平野（後背湿地を区別した区域では自然堤防）
- 後背湿地
- 河原及び堤内地

台地及び段丘
- 高位段丘

（蔵王東麓段丘群）
- 火山泥流台地（弥治郎泥流台地）
- 遠刈田段丘
- 七日原段丘
- 川原子段丘
- 蔵本段丘
- 大網段丘

（松川段丘群）
- 永野段丘
- 曲ヶ竹段丘
- 矢附段丘
- 低位段丘

その他
- 人工平坦地（主として切土による部分）
- 人工平坦地（主として盛土による部分）
- 支倉川流域と荒川流域の間の崖線

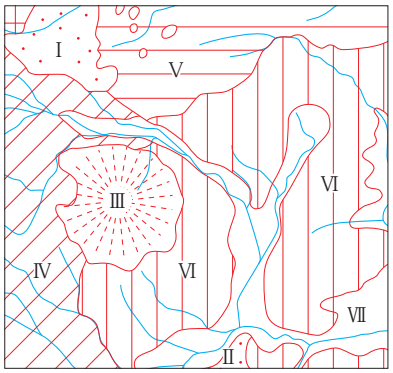
遺跡
- 遺跡範囲（蔵王町内）

行政界
- 市町の境界

1:100,000

2000m　0　2000　4000

（５万分の１都道府県土地分類基本調査 地形分類図「白石」）



地形区分図

Ⅰ　大鳥谷山地
Ⅱ　大萩山地
Ⅲ　青麻火山
Ⅳ　蔵王山麓丘陵地
Ⅴ　高い丘陵地
Ⅵ　低い丘陵地
Ⅶ　白石川河岸平野

行政区分図

第６図　蔵王町の地形区分と遺跡の分布

定されるもので占められており、中世に入って 13 世紀代の活動痕跡が見られるようになるまでの期間は考古学的には空白期となっている。なお、前述のとおり 12 世紀には奥州藤原氏の影響下で阿弥陀堂が建立されたとみられる。近世に関しては周知の遺跡数は少ない現状にあるが、奥州街道の宮宿をはじめ街道筋を中心に活発な活動があった。

以下、各時代・時期における活動痕跡を概観する。

旧石器時代　ナイフ形石器が出土した持長地遺跡など、低位段丘上で 4 か所の活動痕跡が認められる。いずれも単独出土・採集資料のため、帰属時期や活動の内容には不明な点が多い。

縄文時代　青麻山東麓の丘陵・段丘上や松川北岸の段丘・丘陵上などに 201 か所の活動痕跡が認められる。

草創期は明確な活動痕跡が発見されていない。

早期は青麻山東麓の明神裏遺跡・上原田遺跡・沢入Ｄ遺跡、松川北岸の手代木遺跡・三本槻Ａ遺跡、七日原扇状地の北原尾遺跡などがあり、比較的小規模とみられる活動痕跡が広範囲に点在する。明神裏遺跡は明神裏Ⅲ式（林 1962）の標識遺跡である。

前期は青麻山東麓の上原田遺跡・長峰遺跡、松川北岸の西浦遺跡・上曲木Ｂ遺跡、七日原扇状地の七日原遺跡などがあり、青麻山東麓から松川北岸にかけての段丘上に多く分布する。

中期は青麻山東麓の上原田遺跡・二屋敷遺跡、松川北岸の谷地遺跡・寺門前遺跡・高木遺跡・鞘堂山遺跡・湯坂山Ｂ遺跡などがあり、松川北岸の段丘上に多く分布する。中期前半の谷地遺跡では住居跡 14 軒、貯蔵穴 55 基、遺物包含層などを確認している。土偶などを含む多量の遺物が出土し、拠点的な集落跡と考えられる。鞘堂山遺跡では中期中葉の住居跡 5 軒、貯蔵穴 23 基などを確認し、住居は貯蔵穴・柱穴群を囲むように配置されていた可能性がある。湯坂山Ｂ遺跡では中期後葉の住居跡 17 軒、貯蔵穴 16 基などを確認し、土笛などを含む多量の遺物が出土している。

後期は青麻山東麓の二屋敷遺跡・山田沢遺跡、松川北岸の西浦Ｂ遺跡などがあり、青麻山東麓の自然堤防上から松川北岸の段丘上に多く分布する。二屋敷遺跡では後期初頭～前葉の炉跡 2 基、土器埋設遺構 2 基、配石遺構 1 基などが確認されている。西浦Ｂ遺跡では広場を囲むように弧状に配置された後期初頭～前葉の建物跡 23 棟、貯蔵穴 31 基などを確認している。

晩期は青麻山東麓の下別当遺跡・願行寺遺跡・鍛冶沢遺跡などがあり、青麻山東麓の沢地形に面した段丘上に多く分布する。鍛冶沢遺跡では後期末～晩期末にかけての土坑墓・土器埋設遺構・建物跡・住居跡などの遺構群が確認され、建物群は広場を囲むように弧状に配置されていた。また、鍛冶沢遺跡では中空土偶、願行寺遺跡では屈折土偶が採集されている。

弥生時代　79 か所の活動痕跡が広範囲に点在する。

前期は明確な活動痕跡に乏しいが、青麻山東麓の鍛冶沢遺跡では、縄文時代晩期から継続する墓域で再葬墓が確認されている。

中期は松川北岸の西浦遺跡、円田盆地の大橋遺跡・立目場遺跡・都遺跡などがある。この時期になると、松川北岸から円田盆地にかけての丘陵・段丘・微高地上に多く分布するようになり、本地域における遺跡分布の大きな画期となっている。西浦遺跡は円田式（伊東 1955）の標識遺跡である。都遺跡では籾殻圧痕のある土器片が出土している。

後期は円田盆地の愛宕山遺跡・天王遺跡・赤鬼上遺跡・磯ヶ坂遺跡などがあり、円田盆地の微高地から丘陵上にかけて多く分布する。

古墳時代　55 か所の活動痕跡が認められる。その分布は円田盆地の丘陵・微高地上にほぼ限定され、一部が青麻山東麓の微高地上に分布する。

集落跡を見ると、前期は円田盆地の大橋遺跡・堀の内遺跡・伊原沢下遺跡・六角遺跡・愛宕山遺跡などがあり、丘陵尾根上に立地する。大橋遺跡は県内における塩釜式最古段階の集落跡で、住居跡 3 軒が確認されている。愛宕山遺跡は盆地底面との比高差 90m を測る高所に立地し、住居跡・貯蔵穴を確認している。中期は円田盆地の中沢Ａ遺跡・台遺跡・都遺跡・窪田遺跡などがあり、丘陵尾根・微高地上に立地する。中沢Ａ遺跡は県内における南小泉式最古段階の集落跡で、住居跡 9 軒を確認している。台遺跡では盛土と筏地業による水田跡が確認されている。後期は円田盆地の窪田遺跡で陶邑 MT15 型式期の須恵器が出土しているが、明確な活動痕跡は未確認である。

高塚・横穴古墳を見ると、円田盆地の丘陵上に夕向原古墳群・古峯神社古墳・宋膳堂古墳・天王古墳群・西脇古墳などが、青麻山東麓の松川・白石川の合流点付近の低丘陵上に明神裏古墳がある。夕向原 1 号墳は主軸長約 57m、古峯神社古墳は主軸長約 38m の前方後円墳、宋膳堂古墳は直径約 35m の円墳である。昭和 31 年に発掘調査が行なわれた明神裏古墳では、凝灰岩板石を用いた箱式石棺が確認されている。

古代　132 か所の活動痕跡が認められる。その分布は円田盆地の丘陵・微高地上に拠点的なものを含む活動痕跡が密集し、青麻山東麓から松川北岸にかけての

丘陵・段丘・微高地上の広範囲には比較的小規模とみられる活動痕跡が点在する。

飛鳥時代は塩沢北遺跡・十郎田遺跡・都遺跡・窪田遺跡などがあり、円田盆地の丘陵・微高地上に分布する。塩沢北遺跡では住居跡３軒が確認され、陶邑 TK217 型式期の須恵器が出土している。十郎田遺跡では、材木塀による大規模な長方形区画施設と大溝跡、住居跡 27 軒、建物跡５棟などを確認し、出土した土器群には福島～関東地方との関係を窺わせるものが含まれている。また、都遺跡でも材木塀・大溝による区画施設と住居跡を確認している。

奈良時代は堀の内遺跡・六角遺跡・都遺跡・窪田遺跡・戸ノ内遺跡・前戸内遺跡などがあり、円田盆地の丘陵・微高地上に分布する。六角遺跡では大溝による区画施設と住居跡などを確認している。住居跡には短い煙道をもつカマドを付設するものがみられ、出土した土器群は福島～関東地方との関係を窺わせるものが主体的である。こうした土器群は円田盆地で多く確認され、移民を伴った外来集団の移入を示唆している。都遺跡では正方位の溝区画を伴う建物群を確認し、周辺で瓦も出土していることから寺院または官衙の可能性が考えられる。これらの活動痕跡の多くは奈良時代前半～中頃に位置づけられ、奈良時代後半の明確な活動痕跡は未確認である。

飛鳥～奈良時代の活動痕跡が円田盆地にほぼ限定されるのに対し、平安時代の活動痕跡は青麻山東麓から松川北岸にかけての地域を含めた広範囲に分布する。円田盆地では東山遺跡・十郎田遺跡・前戸内遺跡・赤鬼上遺跡・六角遺跡・磯ヶ坂遺跡・戸ノ内脇遺跡、松川北岸では西浦Ｂ遺跡、青麻山東麓では観音堂山遺跡・青竹遺跡・二屋敷遺跡・下原田遺跡などがある。東山遺跡・西浦Ｂ遺跡・観音堂山遺跡・赤鬼上遺跡などでは、燃焼部から煙道までの全体を河原石で構築したカマドを付設する住居跡が確認されている。東山遺跡では土器溜遺構が確認され、「万田」などの墨書土器が多量に出土している。前戸内遺跡では、住居跡 14 軒、建物跡 21 棟などを確認している。集落内には建物跡が逆Ｌ字形に配置される一角があり、郷長・百姓クラスの豪族居宅と考えられる。「苅田」「草手」などの墨書土器が出土している。これらの活動痕跡の多くは平安時代前葉に位置づけられ、平安時代中葉以降の明確な活動痕跡は未確認である。なお、平安時代末葉には円田盆地の丘陵上に「丈六阿弥陀如来坐像」（県指定文化財）を安置した阿弥陀堂が建立されたとみられ、奥州藤原氏の関与が窺われる。現存する「平沢弥陀の杉」（県指定天然記念物）は阿弥陀堂の参道杉並木として植えられたものと伝えられている。

中世　38 か所の活動痕跡が確認されている。このうち 15 か所は城館跡で、青麻山東麓の松川に面した丘陵上、松川北岸の丘陵上、円田盆地西縁の丘陵上に分布する。また、城館跡の周辺を中心に段丘・微高地上で屋敷跡が確認されている。

城館跡は、青麻山東麓の宮城館跡・山家館跡・館の山城跡・曲竹小屋館跡、松川北岸の棚村館跡、円田盆地の矢附館跡・花楯館跡・築館館跡・兵衛館跡・西小屋館跡などがある。兵衛館跡は円田盆地最奥部にあり、丘陵頂部の平場を画する土塁・空堀が良好に残存する。西小屋館跡は円田盆地北部の微高地上にあり、土塁と水堀を伴う方形館である。

城館跡以外では、青麻山東麓の持長地遺跡・二屋敷遺跡、円田盆地の西屋敷遺跡・十郎田遺跡・窪田遺跡・戸ノ内遺跡などがある。持長地遺跡は山家館跡、西屋敷遺跡は西小屋館跡に隣接し、武士階級とみられる屋敷跡が確認されている。十郎田遺跡では屋敷跡の一角で多量の木製挽物荒型が出土し、屋敷内で木器生産が行われていたことが窺われる。

近世　16 か所の活動痕跡が確認されている。円田盆地の車地蔵遺跡・鍛冶屋敷遺跡では、近世前半の屋敷跡、六角遺跡・磯ヶ坂遺跡・前戸内遺跡では近世中頃～後半の墓地が確認されている。宮ヶ内上遺跡では鉄滓が散布し製鉄遺跡とみられる。松川北岸の岩崎山金山跡では、江戸初期には仙台藩主伊達家の支配下で採掘が行なわれた。伊達家家臣の高野家が拝領した平沢要害は大正～昭和前期の珪藻土採掘により壊滅し主要部の遺構が現存しないが、「平沢要害屋敷絵図」には本丸・二の丸・水堀と、南側に屈折する大手が見え、小規模ながらも近世城郭的な構造が窺える。

現存する近世の建造物としては、青麻山東麓の我妻家住宅（江戸中期、国指定文化財）、刈田嶺神社本殿（江戸中期、県指定文化財）、円田盆地の日吉神社本殿（江戸中期）、奥平家住宅（江戸後期、町指定文化財）などがある。日吉神社は高野家の領地替えの時に伊達郡より遷座され、刈田嶺神社は刈田郡総鎮守として白石城主片倉家の保護を受けた。

また、奥州街道の宮宿から分岐して出羽へ至る笹谷街道は町東部を南北に通過した。宮－永野宿間に曲竹一里塚（町史跡）が現存し、円田盆地西側の四方峠付近には古道の一部が保存されて往時を偲ばせている。

3．指定文化財等

（1）指定文化財

国指定文化財

特別天然記念物　カモシカ
（南奥羽山系カモシカ保護地域）
建　造　物　我妻家住宅主屋・文庫蔵・前蔵・板蔵
附 穀蔵・表門・宅地・萬年記

県指定文化財

建　造　物　刈田嶺神社本殿
美術工芸品　丈六阿弥陀如来坐像（保昌寺）
天然記念物　平沢弥陀の杉　附 戒石銘

町指定文化財

建　造　物　刈田嶺神社拝殿・随身門
奥平家住宅
美術工芸品　刀剣　太刀（刈田嶺神社）
工芸品　三尊堂舎（清立寺）
古文書　高野家文書（261 冊）
考古資料　願行寺遺跡出土土偶
歴史資料　高野倫兼遺訓碑
小野訓導映画フィルム
附 デジタル映像記録媒体
無形民俗文化財　民俗芸能　八雲神社神楽
榊流東根神楽
小村崎榊流法印神楽
平沢榊流神楽
白山神社神楽
刈田嶺神社神楽
小村崎春駒
小村崎田植踊
有形民俗文化財　信　　仰　白鳥古碑群（5 基）
刈田嶺神社絵馬(21 点)
敬明講図（絵馬）
達磨講石造物（3 基）
史　　跡　白九頭龍古墳
岩崎山金窟址
遠刈田製鉄所高炉跡
曲竹一里塚　附 古碑群
安養寺参道跡保存地区

（2）指定保存樹木

町指定保存樹木

大庄屋のケヤキ	水神龍桜
神子屋敷のコブシ	臼久保のサイカチ
平沢小学校校庭の松	宮小学校のスズカケ
定谷口のイチョウ	鬼子坂の桜
平沢小学校のしだれ桜	旧墓所のマユミ
館山公園のヒイラギ	狐塚のサイカチ
熊野神社のイチョウ	エコーラインのミズナラ
白山神社の杉並木	えぼし千年杉

（3）自然保護区域

蔵王国定公園

地　　域　宮城県仙台市・白石市・蔵王町・七ヶ宿町・川崎町、山形県山形市・上山市
面　　積　39,635ha（うち蔵王町分 5,010ha）
創 立 日　昭和 38 年（1963 年）8 月 8 日

蔵王高原県立自然公園

地　　域　宮城県白石市・蔵王町・七ヶ宿町・川崎町
面　　積　20,606ha（うち蔵王町分 4,283ha）
創 立 日　昭和 22 年（1947 年）2 月 21 日

（4）その他

新日本観光地百選（毎日新聞主催）
蔵王山（1950 年）
日本百名山（深田久弥著）
蔵王山（1964 年）
新日本観光地 100 選（読売新聞主催）
宮城蔵王（1987 年）
日本の滝百選（選考委員会選定、環境省･林野庁後援）
三階滝（1990 年）
美しい日本のむら景観百選（農林水産省主催）
蔵王町（1991 年）
森の巨人たち百選（林野庁主催）
えぼし千年杉（2000 年）
平成百景（読売新聞主催）
蔵王（2009 年）
日本の地質百選（選定委員会選定）
蔵王火山（2007 年）
土木学会選奨土木遺産（土木学会主催）
疣岩分水工（2012 年）

第２章　平成 27 年度の遺跡調査概要

１．埋蔵文化財保護調整の概要

蔵王町内における周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は現在 202 か所を数え、分布調査等による新規発見遺跡も随時追加されている。これらを文化財保護法に基づき適切に保護するため、農地転用および各種開発を行なう際には、事業者に対して埋蔵文化財との関わりについての確認を求め、関わりが予想される場合には宮城県教育委員会と連携して埋蔵文化財保存協議を実施している。協議においては、開発予定地の地下の遺構の有無が不明な場合には「遺構確認調査」、遺構面に影響を与えない工事や施工範囲が狭小な場合、遺構が存在する可能性が低い場合には「工事立会」を行ない、過去に発掘調査済みあるいは遺構が存在しないことを確認済みの場合には「慎重工事」としている。

さらに、遺構確認調査で遺構の分布が確認された場合には、必要に応じて事業者に計画の変更等を求め、遺跡の現状保存に努めている。また、事業主旨および緊急性などから遺跡の破壊が避けられない場合には、事前に「緊急発掘調査（本発掘調査）」を行なって遺跡の記録保存を図ることとしている。

平成 27 年度の発掘届等の件数は 17 件で、文化財保護法 93 条に基づく届出 14 件、同 94 条に基づく通知３件である。事業内容別では道路１件、住宅１件、個人住宅１件、その他建物４件、電気等７件、農業基盤整備１件、その他開発１件で、回答内容別では発掘調査７件、工事立会 10 件である。昨年度の状況と比較すると、発掘届等の件数は 11 件（39%）の減少となっている。事業内容別では個人住宅と電気等（電柱）の件数が減少した。また、電気等では昨年度と同様に太陽光発電所が１件あった。太陽光発電所については、建設予定地と遺跡との関わりについての照会件数も増加傾向にあり、今後の動向を注視しながら円滑な調整を図っていく必要がある。

２．埋蔵文化財調査の概要

平成 27 年度の埋蔵文化財保存協議で現場対応を行なったのは 19 件（第１表、延べ 20 遺跡、過年度分の届出等に基づくものを含む）であった。対応の内訳は、遺構確認調査８件、工事立会 10 件、慎重工事１件である。

このうち確認調査２件（西屋敷遺跡、古峯神社古墳）、工事立会１件（上葉の木沢・窪田遺跡）で遺構を確認した。

西屋敷遺跡の集落道路（町道舘前磯ヶ坂線）改良工事予定地は、周辺の過去の調査結果から遺構の分布が予想された。事前協議の結果、生活道路の改良計画であり事業の必要性が高いことから、確認調査を実施して遺構の存在が確認された場合、工事着手前に本発掘調査を実施して記録保存を図ることになった。確認調査の結果、埋没谷地形に面した緩斜面で溝跡１条、土坑７基、柱穴７か所を確認した。このため、工事計画範囲のうち遺構が確認された緩斜面を対象として本発掘調査を実施することになった。

古峯神社古墳の作業道建設工事予定地は墳丘西～北側に沿うもので、古墳との関わりが予想された。工法は未舗装の砂利道である。事前協議では古墳から出来るだけ離れたルートへの変更を求めたものの、地形的制約から大幅な変更は困難とのことであった。確認調査の結果、墳丘裾部が地山削り出しによって構築され、その外周に平坦面が設けられていた可能性が考えられた。遺物は土師器、石器が少量出土した。これを受けて事業主と遺構の保存について再度協議し、墳丘部と一定の距離を保ちながら地形の改変を出来るだけ少なくするよう、墳丘裾部外周の平坦面より２m程度外側にルートを変更することで合意した。本事業は地元住民組織が主体となって取り組む里山整備の一環で、周辺には本遺跡のほか夕向原古墳群、愛宕山遺跡が立地する。整備される作業道については森林管理のほか遺跡の見学・散策路としての活用も見込まれる。

上葉の木沢・窪田遺跡の暗渠排水工事立会では、暗渠管埋設部で土坑・柱穴数基などが確認されたが、工事による影響は及ばないことから現状保存とした。

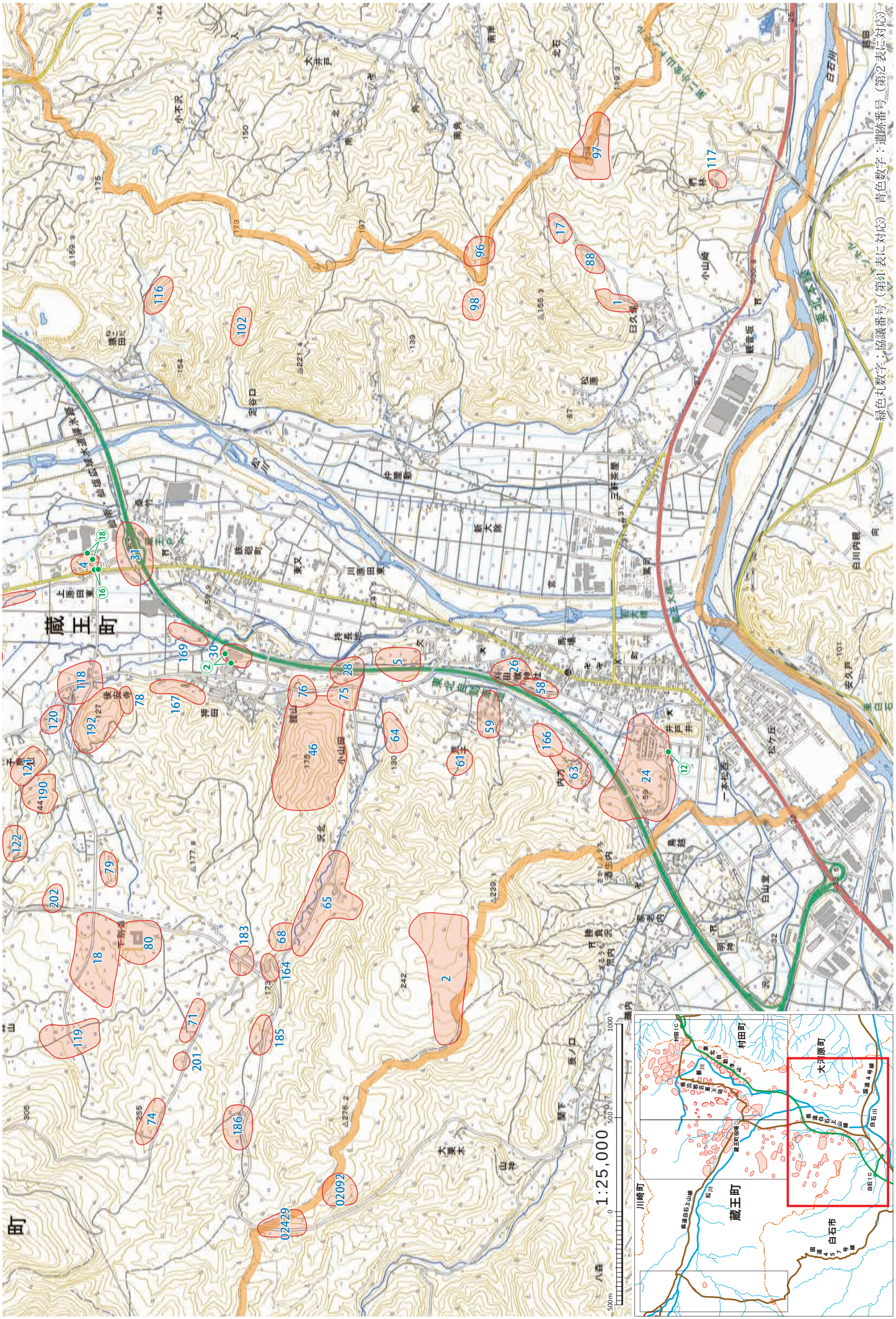
また、遺構は確認していないが、確認調査１件（小原遺跡：太陽光発電所設置予定地）で少量の遺物が表面採集された。

第１表　平成 27 年度の埋蔵文化財保存協議にかかる確認調査・工事立会・慎重工事一覧

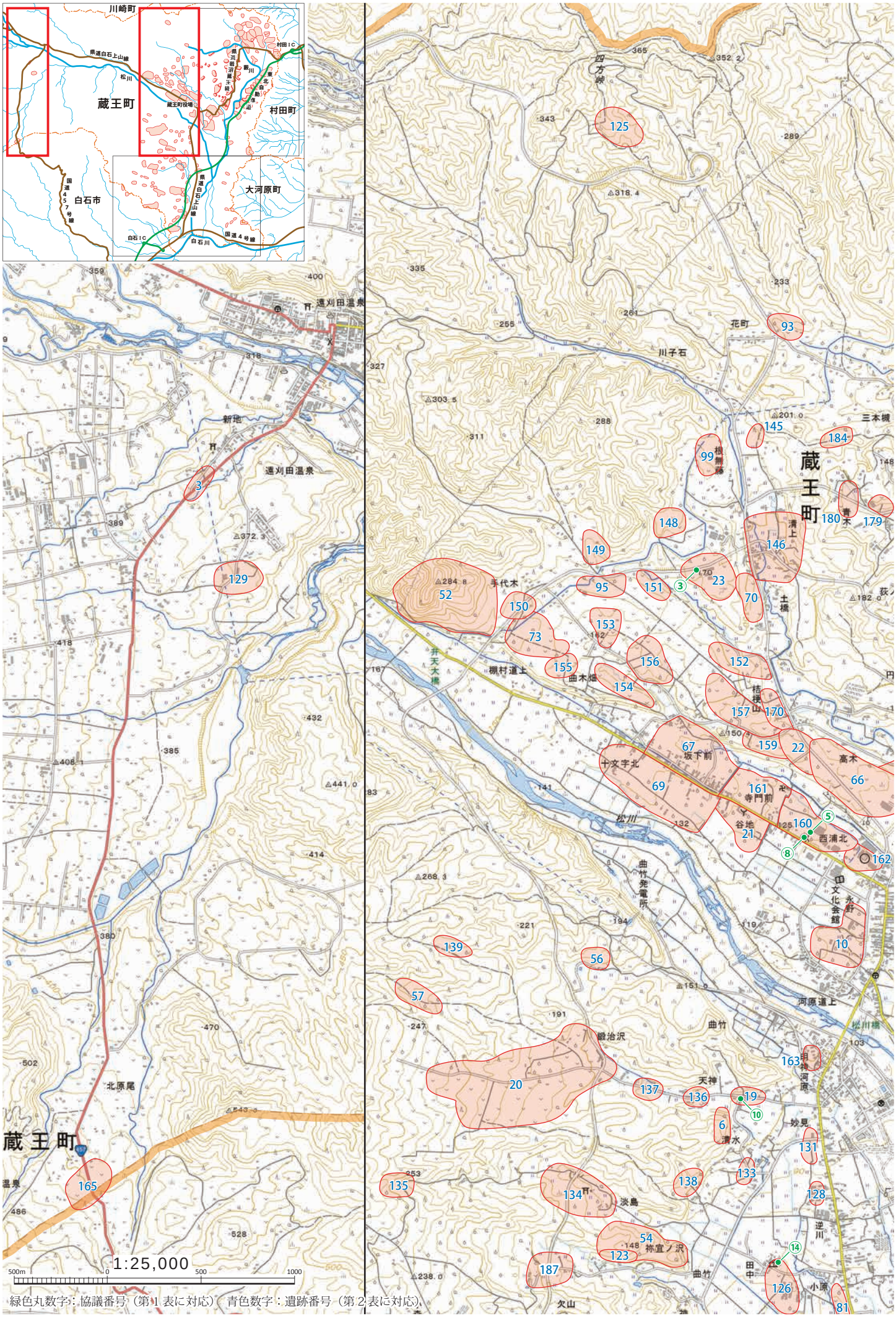
番号	遺跡名	遺跡番号	対応内容	協議箇所	調査原因	調査期間 （慎重工事：発掘届等の回答日）	対象面積	調査面積	遺構	主な調査成果 （旧地形／遺構確認面／遺構／遺物）
1	**西屋敷遺跡**	05196	確認調査	小村崎字西屋敷 1-2 地先・4-1 地先・5-1 地先	集落道路改良工事計画	平成 27 年 4 月 6 日～ 8 日	1,300㎡	107.84㎡	有	削平面（西部），埋没谷（東部）／ローム層／溝 1・土坑 7・柱穴 7 ／農地整備事業（円田２期地区）
2	二屋敷遺跡	05030	工事立会	宮字二屋敷 87 地先・91-2 地先	電柱設置工事	平成 27 年 4 月 9 日	0.5㎡	－	無	削平面／青砂層，白色粘土層
3	湯坂山 B 遺跡	05023	慎重工事	円田字和大原 9-1	電柱接地線設置工事	平成 27 年 4 月 24 日	0.36㎡	－	－	既設電柱設置部
4	清水上遺跡	05086	確認調査	円田字清水上 17-1・15	農業用倉庫建築工事計画	平成 27 年 6 月 3 日	89.0㎡	8.0㎡	無	北向斜面／礫混じりローム層
5	西浦 B 遺跡	05160	工事立会	円田字西浦北 44-2	電柱・支線設置工事	平成 27 年 6 月 5 日	0.19㎡	－	無	段丘平坦面／ローム層
6	立目場遺跡	05013	工事立会	平沢字立目場 5-8 地先， 谷地田 5-2 地先	町道維持補修工事	平成 27 年 9 月 2 日	37.9㎡	－	無	既設側溝設置部（町道立目場支線）
7	原遺跡	05111	確認調査	小村崎字向原 68-1	工場兼店舗建築工事計画	平成 27 年 9 月 24 日	836㎡	32.8㎡	無	削平面（西部），埋没谷（東部）／礫混じりローム層
8	西浦 B 遺跡	05160	確認調査	円田字西浦北 50-11	車庫建築工事計画	平成 27 年 9 月 24 日	167㎡	26.4㎡	無	段丘平坦面／ローム層
9	土ヶ市遺跡	05082	工事立会	円田字見継 14-1 地先	電柱・支線設置工事	平成 27 年 10 月 30 日	2.0㎡	－	無	道路盛土部
10	日向前遺跡	05019	工事立会	曲竹字天神 31-1	電柱建替工事	平成 27 年 11 月 2 日	1.1㎡	－	無	埋没谷／砂質粘土層
11	丈六遺跡	05103	工事立会	平沢字山の入 2	電柱建替工事	平成 27 年 11 月 4 日	0.5㎡	－	無	盛土部
12	宮城館跡	05024	確認調査	宮字台 4-2	共同住宅建築工事計画	平成 27 年 11 月 13 日	506.59㎡	24.0㎡	無	削平面／粘土層
13	**古峯神社古墳**	07149	確認調査	平沢字屋木戸内・吹張地内	作業道建設工事計画	平成 27 年 11 月 18 日～ 19 日	88.0㎡	17.12㎡	有	丘陵尾根部／ローム層／墳丘裾部・平坦面／土師器，陶磁器，石器
14	**小原遺跡**	05126	確認調査	曲竹字田中 15 の一部	太陽光発電所設置工事計画	平成 27 年 12 月 14 日	1,460㎡	159.2㎡	無	段丘平坦面／小礫混じりローム層／縄文土器、石器
15	東浦遺跡	05062	確認調査	円田字東浦 2-4	個人住宅建築工事計画	平成 27 年 12 月 25 日	324.04㎡	17.12㎡	無	段丘平坦面／ローム層
16	上原田遺跡	05004	工事立会	宮字上原田 6-8 地先	電柱移設工事	平成 28 年 1 月 27 日	0.4㎡	－	無	段丘平坦面／砂混じり礫層
17	後原遺跡	05110	工事立会	小村崎字後原・向原・四方屋敷地内	用水路改修工事	平成 28 年 1 月 12・21・29 日，2 月 1 日	L=422.6m	－	無	丘陵平坦面～埋没谷／黒色・暗褐色シルト層，礫混じりローム層，砂質粘土層，白色粘土層／農地整備事業（円田２期地区）
18	上原田遺跡	05004	工事立会	宮字上原田 6-1	電話柱・支線撤去工事	平成 28 年 2 月 26 日	1.2㎡	－	無	
19	新城館跡 鍛冶屋敷遺跡 上葉の木沢遺跡 窪田遺跡	05049 05114 05143 05193	工事立会	平沢字窪田， 小村崎字一ツ橋地内	暗渠排水設備工事	平成 28 年 2 月 9 日，3 月 8 日，3 月 25 日，3 月 31 日	146.6ha	－	有	新城館跡：削平面／ローム層 鍛冶屋敷遺跡：埋没谷／黒色シルト層 上葉の木沢遺跡：削平面／黒色シルト層，白色粘土層／土坑 1 窪田遺跡：平坦面／ローム層／土坑 2・柱穴 2 ／被熱粘土塊

※番号は第７図の緑色丸数字に対応する。第３章で報告する調査は番号と遺跡名を太字で表記した。なお、調査原因は本表で表記を統一しており協議書等に記載された事業名とは一致しない場合がある。

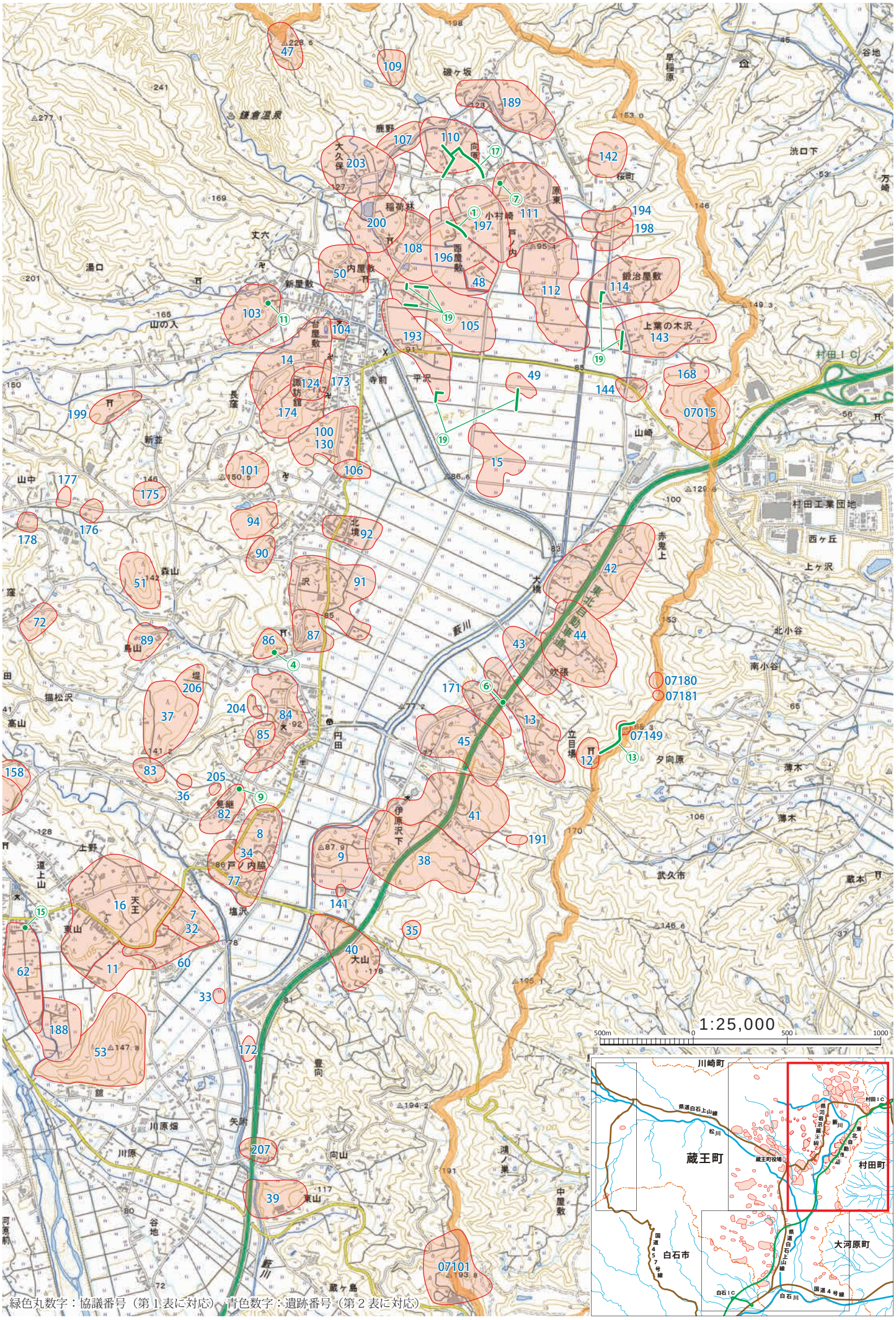
第 7-1 図　蔵王町遺跡地図・協議箇所位置図（1）



第 7-2 図　蔵王町遺跡地図・協議箇所位置図（2）



第 7-3 図　蔵王町遺跡地図・協議箇所位置図（3）　　青色数字:遺跡番号　緑色丸数字:協議番号（第 1 表に対応）



緑色丸数字：協議番号（第 1 表に対応）　青色数字：遺跡番号（第 2 表に対応）

第 2-1 表　蔵王町内遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代
1	向上遺跡	散布地	古墳、古代
2	上平遺跡	散布地	縄文、古代
3	新地遺跡	散布地	古代
4	**上原田遺跡**	散布地	縄文早～後、古墳、古代
5	長峰遺跡	散布地	縄文前・中、弥生中、古代
6	清水遺跡	散布地	縄文・弥生中
7	天王遺跡	散布地	縄文早・中、弥生中・後、古代
8	宋膳堂遺跡	散布地	弥生中・後、古墳、平安
9	台遺跡	散布地・水田	弥生中、古墳中・後、平安、中世・近世
10	西浦遺跡	集落・散布地	縄文早～後、弥生、古代
11	下永向山遺跡	散布地	縄文中、弥生中・後、古代
12	愛宕山遺跡	散布地	弥生中・後、古墳前・中
13	**立目場遺跡**	散布地	縄文、弥生中・後、古墳
14	諏訪舘前遺跡	集落・散布地	縄文晩、弥生、古墳前・中、平安
15	都遺跡	集落	縄文後、弥生中・後、古墳前～後、飛鳥～平安、中世
16	上野遺跡	散布地	縄文中、弥生中、平安
17	臼ヶ久保入遺跡	散布地	縄文前・中、古代
18	下別当遺跡	散布地	縄文中～晩
19	**日向前遺跡**	散布地	縄文早・晩、古代
20	鍛冶沢遺跡	散布地	縄文早・中～晩、弥生前・中、古代
21	谷地遺跡	散布地	縄文中～晩
22	鞘堂山遺跡	散布地	縄文中・後、弥生、古代
23	**湯坂山Ｂ遺跡**	集落・散布地	縄文中～晩、弥生
24	**宮城館跡**	城館・散布地	古墳中、中世
26	明神裏遺跡	散布地・古墳	旧石器、縄文早・前、弥生中、古墳中、平安
27	西裏遺跡	散布地	縄文中、弥生中
28	持長地遺跡	集落	旧石器、縄文前～後、弥生、古墳、古代、中世
30	**二屋敷遺跡**	集落	縄文早・中～晩、平安、中世
31	下原田遺跡	集落	縄文前～晩、弥生後、平安
32	天王古墳群	円墳	古墳
33	鉾附神社古墳	円墳	古墳
34	宋膳堂古墳	円墳	古墳
35	中屋敷古墳	円墳	古墳
36	八幡山古墳群	円墳・方墳	古墳
37	花楯館跡	城館	中世
38	塩沢北遺跡	集落	弥生中・後、古墳中・後、飛鳥、平安
39	東山遺跡	集落	縄文早、平安
40	大山遺跡	集落	縄文早、弥生中、古墳前
41	伊原沢下遺跡	集落	古墳
42	赤鬼上遺跡	集落	弥生中・後、平安、中世
43	屋木戸内遺跡	散布地	弥生中、古代
44	大橋遺跡	集落	縄文後、弥生中・後、古墳前、平安
45	中沢Ａ遺跡	散布地	縄文早、弥生中・後、古墳中・後、古代～中世
46	山家館跡	城館	中世
47	兵衛館跡	城館	縄文、弥生、古代、中世
48	西小屋館跡	城館	平安、中世
49	**新城館跡**	散布地・城館	弥生、古墳後～古代、中世
50	平沢館跡	城館	中世
51	築館館跡	城館	中世
52	棚村館跡	城館	中世
53	矢附館跡	城館	中世

番号	遺跡名	種別	時代
54	曲竹小屋館跡	城館	中世
56	馬越遺跡	散布地	縄文中
57	鍛冶沢北遺跡	散布地	縄文早・中～晩、古代
58	馬場北遺跡	散布地	縄文早、平安
59	乙当地遺跡	散布地	旧石器、縄文早、平安
60	蟹沢遺跡	散布地	弥生中
61	荒子遺跡	散布地	古代
62	**東浦遺跡**	散布地	縄文中・後、弥生中、古墳、古代
63	内方遺跡	散布地	古代
64	小山田遺跡	散布地	縄文、古代、中世
65	山田沢遺跡	散布地	縄文後・晩
66	高木遺跡	散布地	縄文中
67	曲木遺跡	散布地	縄文中
68	沢北遺跡	散布地	縄文後・晩、弥生中
69	十文字遺跡	散布地	縄文中
70	湯坂山遺跡	散布地	縄文中～晩
71	沢入遺跡	散布地	縄文早・中・後、古代
72	荻の窪遺跡	散布地	縄文晩、弥生
73	棚村遺跡	散布地	縄文後
74	遠森山下遺跡	散布地	縄文晩、古代
75	八幡平遺跡	散布地	縄文前・中、古代
76	根方Ａ遺跡	散布地	縄文後
77	戸の内脇遺跡	散布地	縄文早・中、弥生中、古墳、平安、中世
78	中野Ａ遺跡	散布地	縄文後、古代
79	下別当下遺跡	散布地	縄文後
80	小屋場遺跡	散布地	縄文後・晩
81	逆川遺跡	散布地	縄文早・前
82	**土ヶ市遺跡**	散布地	弥生、古代
83	見継遺跡	散布地	縄文
84	堀の内遺跡	集落・散布地	縄文、弥生中・後、古墳前～後、奈良、平安
85	寺坂遺跡	散布地	平安
86	**清水上遺跡**	散布地	弥生、平安
87	白山遺跡	集落・散布地	弥生、古墳中
88	松ヶ沢遺跡	散布地	縄文後、古代
89	鳥山遺跡	散布地	縄文中、古代
90	沢遺跡	散布地	古代
91	本宿前遺跡	集落・散布地	縄文早、弥生中、平安、中世
92	中組遺跡	集落・散布地	縄文早・中、弥生、平安、中世、近世
93	町尻遺跡	散布地	縄文
94	北境遺跡	散布地	縄文早、弥生後、古代
95	手代木遺跡	散布地	縄文早、弥生
96	東久保遺跡	散布地	古代
97	大久保遺跡	散布地	縄文中・後
98	大平山遺跡	散布地	縄文
99	根無藤館跡	城館	中世
100	小高遺跡	散布地	縄文、弥生、古代
101	大柿内遺跡	散布地	弥生
102	定谷口遺跡	散布地	縄文後、古代
103	**丈六遺跡**	散布地	古代
104	平沢遺跡	散布地	古代
105	十郎田遺跡	散布地	縄文、古墳中～後、飛鳥～平安、中世、近世
106	堂の入遺跡	散布地	弥生、古代、中世

第 2-2 表　蔵王町内遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代
107	大久保東遺跡	散布地	古墳、奈良、平安
108	前戸内遺跡	散布地	旧石器、縄文後、弥生中・後、古墳中、奈良、平安、中世、近世
109	鹿野遺跡	散布地	古代
110	**後原遺跡**	散布地	縄文、古墳、奈良、平安
111	**原遺跡**	散布地	古代
112	六角遺跡	散布地	縄文早、弥生中・後、古墳前・後、奈良、平安、中世、近世
114	**鍛冶屋敷遺跡**	散布地	縄文中～晩、古代、近世
116	一本木遺跡	散布地	縄文中・後
117	椚林遺跡	散布地	古代
118	青竹遺跡	散布地	縄文後、弥生後、平安、中世、近世
119	願行寺遺跡	散布地・寺院	縄文早・中・後、弥生中、古墳、中世
120	後安寺遺跡	散布地	古代
121	若神子山遺跡	散布地	縄文後
122	足の又遺跡	散布地	縄文晩
123	称宜ノ沢遺跡	散布地	縄文後
124	諏訪舘跡	城館	中世
125	四方坂館跡	城館	中世
126	**小原遺跡**	散布地	縄文晩、平安
128	下原遺跡	散布地	縄文中
129	七日原遺跡	散布地	縄文前
130	経塚	経塚	中世
131	上原遺跡	散布地	縄文後
133	妙見遺跡	散布地	縄文晩
134	淡島山遺跡	散布地	縄文後、古代
135	立石遺跡	散布地	縄文後
136	八卦遺跡	散布地	縄文後
137	市ノ沢遺跡	散布地	弥生、古代
138	岩蔵寺遺跡	散布地	縄文晩、古代
139	小野入遺跡	散布地	縄文早・中～晩、古代
141	西脇古墳	円墳	古墳
142	清上遺跡	散布地	古代
143	**上葉の木沢遺跡**	散布地	古代
144	中葉の木沢遺跡	散布地	縄文、弥生、古代
145	円田入Ｃ遺跡	散布地	縄文
146	円田入Ｂ遺跡	散布地	縄文早・中
148	根無藤遺跡	散布地	縄文早・晩、古代
149	入山遺跡	散布地	縄文前、弥生、古代
150	官林遺跡	散布地	縄文早
151	手代木Ｂ遺跡	散布地	縄文早・後、古代
152	土橋遺跡	散布地	縄文後、弥生
153	上曲木Ｃ遺跡	散布地	縄文早・中
154	上曲木Ｅ遺跡	散布地	縄文前・中
155	曲木畑遺跡	散布地	縄文
156	上曲木Ｄ遺跡	散布地	縄文前・中
157	上曲木Ｂ遺跡	散布地	縄文早～中、古代
158	高木Ｂ遺跡	散布地	縄文
159	上曲木Ａ遺跡	散布地	縄文早、弥生、古代
160	**西浦Ｂ遺跡**	集落・散布地	縄文中～晩、弥生、平安、中世、近世
161	寺門前遺跡	散布地	縄文中・後
162	西浦Ｃ遺跡	散布地	縄文前～後、弥生、奈良、平安
163	白九頭竜古墳	古墳	古墳
164	沢北Ｂ遺跡	散布地	縄文後
165	北原尾遺跡	散布地	縄文早
166	天王前遺跡	散布地	縄文、古代
167	根方Ｂ遺跡	散布地	古代
168	山崎遺跡	散布地	縄文早
169	中野Ｂ遺跡	散布地	古代
170	桔梗山Ｂ遺跡	散布地	縄文
171	中沢Ｂ遺跡	散布地	弥生中、古墳、古代
172	豊向遺跡	散布地	古墳
173	諏訪舘横穴墓群	横穴墓	古墳
174	諏訪舘遺跡	散布地	弥生、古墳
175	新並遺跡	散布地	縄文中
176	角山Ｂ遺跡	散布地	縄文
177	角山Ａ遺跡	散布地	古代
178	青木遺跡	散布地	平安
179	山中遺跡	散布地	平安
180	入青木遺跡	散布地	縄文
183	沢入Ｂ遺跡	散布地	縄文後
184	三本槻Ａ遺跡	散布地	縄文早
185	遠森山遺跡	散布地	縄文晩？
186	沢入Ｃ遺跡	散布地	縄文
187	欠山遺跡	散布地	縄文
188	下永野Ｂ遺跡	散布地	奈良、平安
189	磯ヶ坂遺跡	散布地	奈良、平安
190	若神子山Ｂ遺跡	散布地	縄文前・後
191	宮ヶ内上遺跡	製鉄	近世
192	館の山城跡	城館	中世
193	**窪田遺跡**	集落・散布地	縄文、弥生後、古墳中・後、飛鳥～平安、中世
194	三の輪遺跡	散布地	古墳、奈良、平安
196	**西屋敷遺跡**	集落	縄文、奈良、平安、中世、近世
197	戸ノ内遺跡	集落	縄文、弥生、飛鳥～平安、中世
198	車地蔵遺跡	散布地	古代、中世、近世
199	三本槻Ｂ遺跡	散布地	縄文、平安
200	稲荷林遺跡	散布地	縄文早、古墳～平安
201	沢入Ｄ遺跡	散布地	縄文早・晩
202	観音堂山遺跡	散布地	縄文後、平安
203	大久保西遺跡	散布地	古墳、奈良、平安
204	堀の内Ｂ遺跡	散布地	弥生、古墳
205	八幡山東遺跡	散布地	弥生、古代
206	堤遺跡	散布地	縄文、弥生、古墳、古代、中世
207	東山Ｂ遺跡	集落・散布地	縄文早・平安
02092	井戸遺跡	散布地	縄文前・中、古代
02429	炭の平遺跡	散布地	縄文早・前
07015	北割山遺跡	散布地	縄文、弥生
07101	傾城山遺跡	散布地	縄文
07149	**古峯神社古墳**	前方後円墳	古墳
07180	夕向原１号墳	前方後円墳	古墳
07181	夕向原２号墳	円墳	古墳

（合計 202 か所）

※番号は宮城県遺跡登録番号のうち、蔵王町の市町村番号 05 を省略した下三桁を記載した（欠番は省略。第 7 図に記載した青色数字に対応）。
※五桁で記載した番号のうち 02 で始まるものは白石市、07 で始まるものは村田町登録分である。蔵王町の行政界にまたがるもののみを記載した。
※平成 27 年度に現場対応を実施した遺跡（第 1 表）は番号・遺跡名を太字で表記した。

第３章　調査の成果

第１節　遺構確認調査

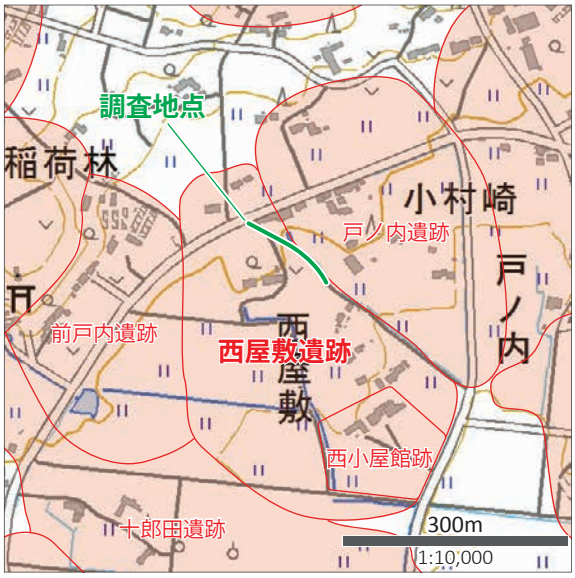
１．西屋敷遺跡

調査要項（第１表１）

遺 跡 名：西屋敷（にしやしき）遺跡（遺跡登録番号 05196）
調査原因：集落道路（町道舘前磯ヶ坂線）改良工事計画
調査箇所：蔵王町大字小村崎（こむらさき）字西屋敷
調査期間：平成 27 年 4 月 6 ～ 8 日
対象面積：1,300m^2
調査面積：107.84m^2
調査主体：蔵王町教育委員会
調 査 員：鈴木雅
調査協力：宮城県大河原地方振興事務所・奥平穣士

遺跡の概要

円田盆地西側の高木丘陵裾部から派生して、盆地北縁から南東方向に細長く伸びる低平な舌状丘陵上に立地する。縄文・奈良・平安・中世・近世の集落・散布地として登録されている。南東側の舌状丘陵先端部には西小屋館跡、北東側には戸ノ内遺跡、南西側には前戸内遺跡、南側には十郎田遺跡がそれぞれ隣接する。本遺跡では平成 21 年度に県営ほ場整備事業「円田２期地区」区画整理工事に伴って発掘調査を実施しており、西小屋館の西辺を区画した堀跡の一部とこれに隣接して営まれた中世の屋敷跡、平安時代の掘立柱建物跡・井戸跡、堆積層に飛鳥時代後半の遺物を含む流路跡などを確認している（町 15・19 集）。調査地点の現況は畑地で、標高約 100m である。地表面には少量の土師器・陶磁器片の散布が見られた。



第８図　調査地点位置図

調査の成果

道路拡幅計画範囲のうち、現道南西側の畑地にトレンチ７か所を設定して調査を実施した。旧地形は北西部が舌状丘陵基部の平坦面、南東部が小規模な埋没谷地形に面した舌状丘陵辺縁部の北東向き緩斜面となっている。丘陵部では過去の造成による削平が見られた。なお、対象範囲北端の町道小村崎中央線との取付部は南側の畑地より 1m ほど高く旧地形を残していることが窺われたが、立木伐採が未了であったことから今回は調査対象としなかった。

写真１　調査前現況（北西から）

写真２　調査前現況（南東から）

基本層序は、１層：表土（耕作土）、２層：黒色シルト（黒ボク土）、３層：暗褐色シルト（漸移層）、４層：黄褐色ロームである。６トレンチ北西部で埋没谷地形の傾斜面を確認した。これより南東側の１～５トレンチ・６トレンチ南東部では１・２層の堆積が厚く、下部は湿地性の黒色粘質シルトとなっており、著しい湧水が見られた。また、北西側の７トレンチでは１層の直下が４層の削平面となっており、過去の畑地の造成に伴う削平の影響が見られた。遺構確認面は４層上面である。

遺構は６トレンチ北西部・７トレンチで溝跡１条、土坑７基、柱穴７か所を確認し、調査地点の北西部に遺構が散漫に分布することが判明した。

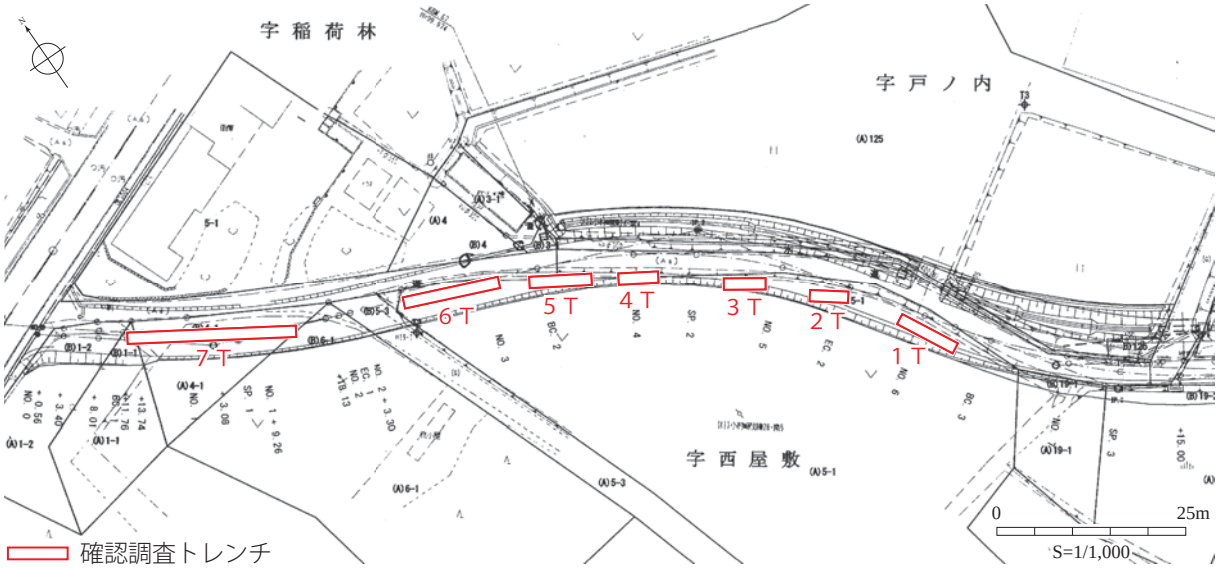
上記の調査結果に基づき、現道部分を含む事業計画範囲の北西部を対象に本発掘調査を実施して遺構の記録保存を図ることになった。

写真３　トレンチ配置状況（６Ｔ・北西から）

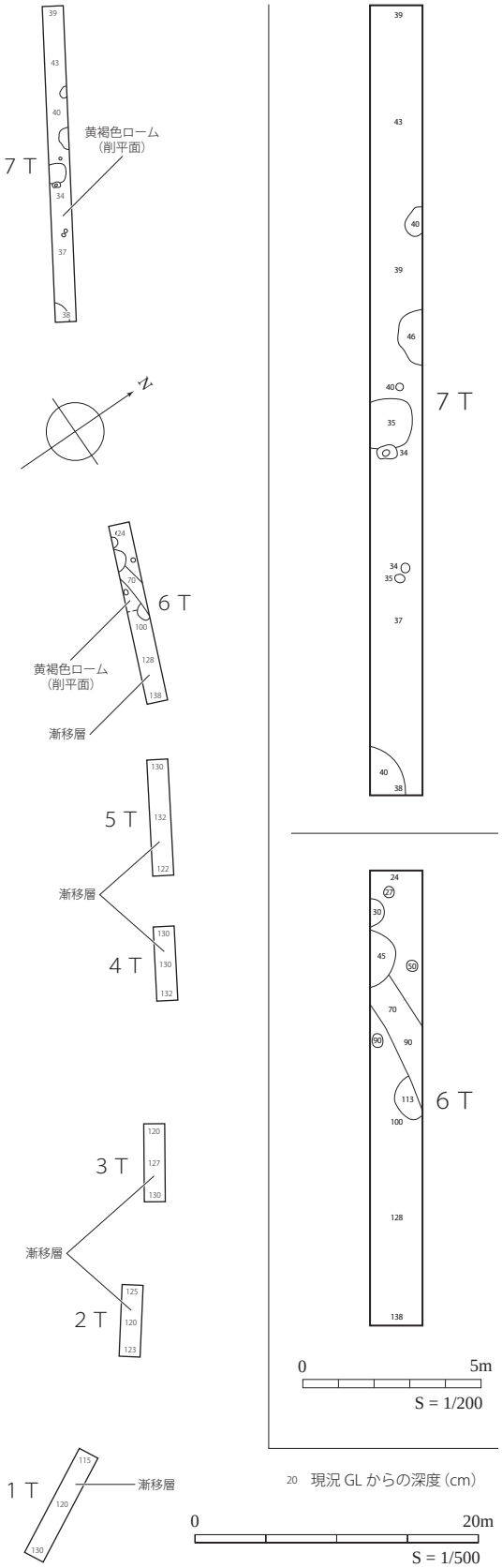
写真４　トレンチ配置状況（７Ｔ・西から）

写真５　遺構確認作業（６Ｔ・北西から）

写真６　遺構確認作業（７Ｔ・南東から）



第９図　調査区配置図



第 10 図　遺構配置図

写真７　トレンチ配置状況（１Ｔ・南東から）

写真８　遺構確認状況
（６Ｔ・北西から）

写真９　遺構確認状況
（６Ｔ・南東から）

写真 10　遺構確認状況
（７Ｔ・北西から）

写真 11　遺構確認状況
（７Ｔ・南東から）

2．古峯神社古墳

調査要項（第 1 表 13）

遺 跡 名：古峯神社古墳（遺跡登録番号 07149）
調査原因：作業道建設工事計画
調査箇所：蔵王町大字平沢字屋木戸内・吹張
調査期間：平成 27 年 11 月 18・19 日
対象面積：88.0m^2
調査面積：17.12m^2
調査主体：蔵王町教育委員会
調 査 員：佐藤洋一・鈴木雅・庄子善昭
調査協力：ひがしね古墳の森保全会

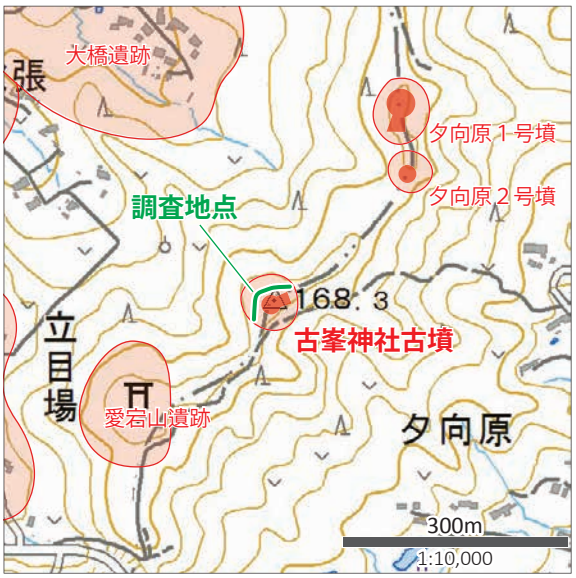
遺跡の概要

円田盆地と村田盆地を画する愛宕山丘陵の尾根上に立地し、古墳時代の古墳として登録されている。周辺には本遺跡と連続する尾根上に夕向原古墳群、愛宕山遺跡が立地する。また、本遺跡から北西側へ伸びる尾根の先端部付近には古墳時代前期の集落跡である大橋遺跡が立地している。本遺跡では平成 8 年に藤沢敦氏らによる測量調査が行なわれ、主軸長 38m の前方後円墳であることが判明している（藤沢 2000）。

調査の成果

工事計画範囲と墳丘裾部の関わりを確認するため、トレンチ 5 か所を設定して調査を実施した。

基本層序は、1 層：表土（腐植土）、2 層：褐色森林土、3 層：漸移層、4 層：黄褐色ロームである。1 ～ 4 トレンチでは墳丘裾部の地山削り出し面と、その外周を帯状に巡る幅 1.5 ～ 2.8m の平坦面およびこれを埋め



第 11 図　調査地点位置図

写真 12　墳丘の現況（南西から）

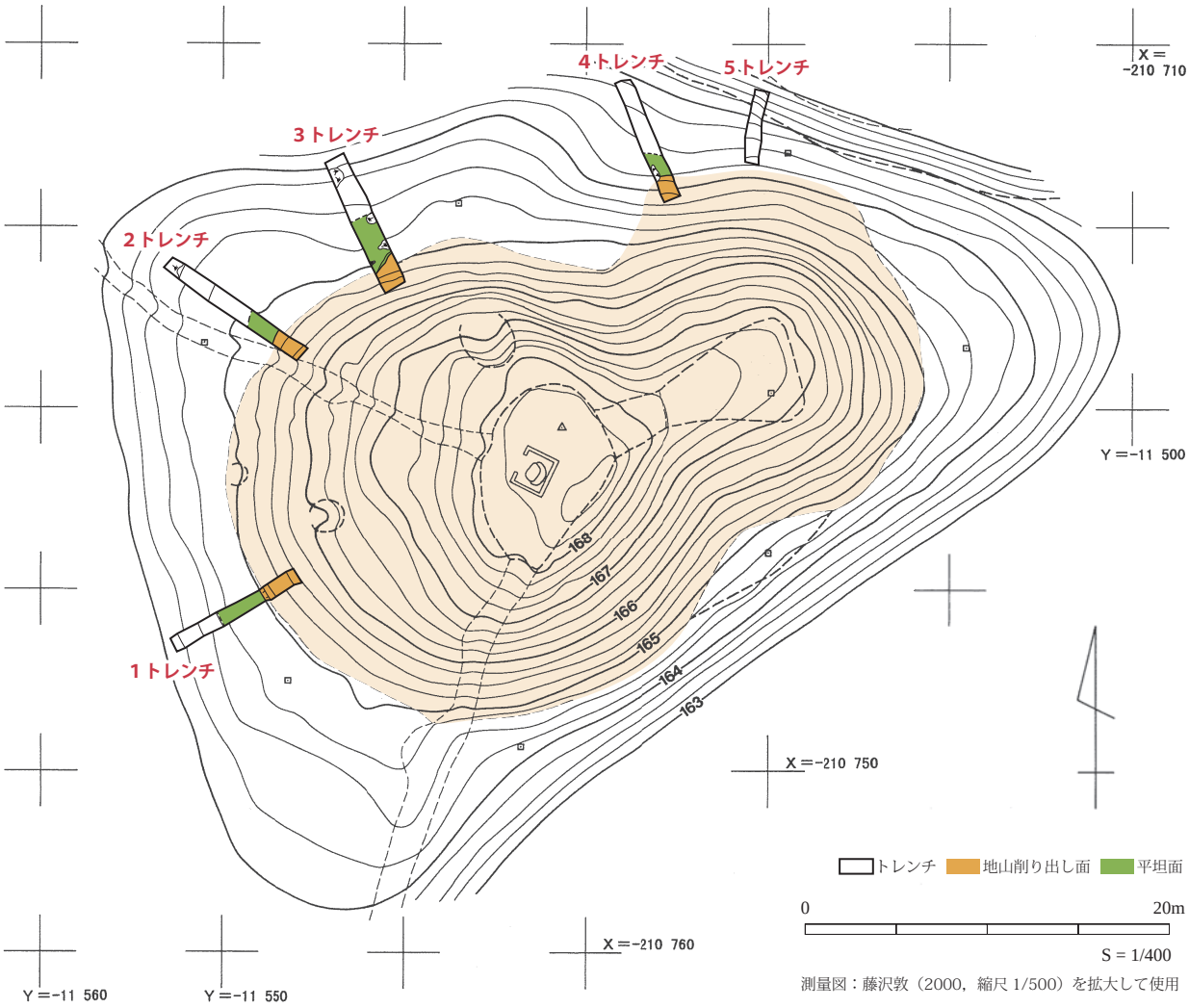
写真 13　墳頂部の現況（東から）

写真 14　トレンチ配置状況（1 T・南から）

写真 15　トレンチ配置状況（2 T・南東から）

る暗褐色土の堆積を確認した。遺物は遺構確認面から土師器片（第 14 図 1 ～ 3）、剥片（第 14 図 4）、地山漸移層から石核（第 14 図 5）が出土した。

上記の結果から、墳丘西～北側の裾部が地山削り出しによって構築され、外側に平坦面が設けられていた可能性が考えられた。これを受けて事業主と計画の変更について協議したところ、地形的な制約から大幅な変更は困難であり、仮に斜面部を通るルートに変更した場合は切土量が大きくなり将来的に土砂崩落等の悪影響が懸念されることが判明した。このため、墳丘部および平坦面と一定の距離を保ちながら切土量を最小限とするよう、調査で確認した墳丘裾部外周の平坦面より 2m 程度外側に離れた位置にルートを変更して施工することで合意した。

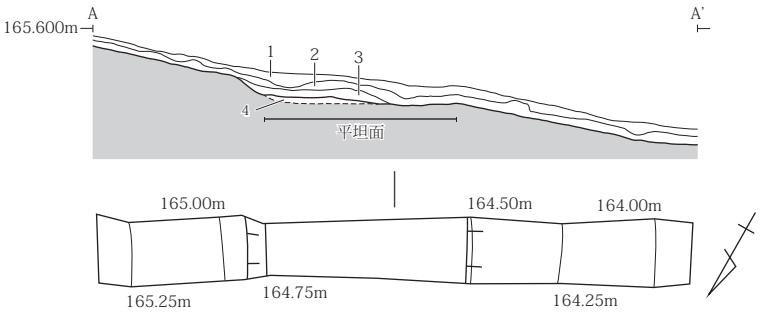


第 12 図　調査区配置図

写真 16　1 トレンチ北東部（南西から）

写真 17　1 トレンチ土層断面（西から）

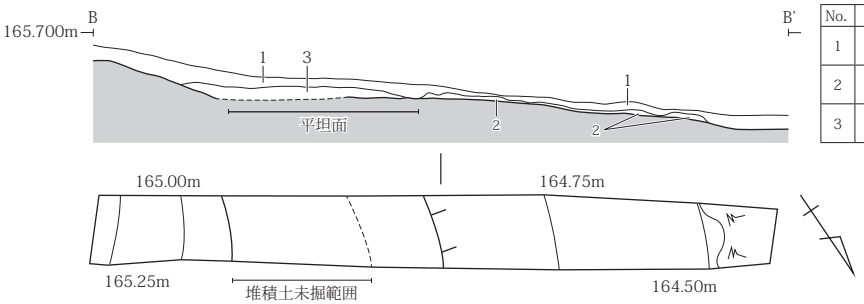
1 トレンチ



1 トレンチ南東壁断面　A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	表土（腐植土）
2	10YR4/3 褐	シルト	褐色シルト小ブロック少量（褐色森林土）
3	10YR3/4 暗褐	シルト	砂質シルト（火山砂か）ブロック少量
4	7.5YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック含む（漸移層）

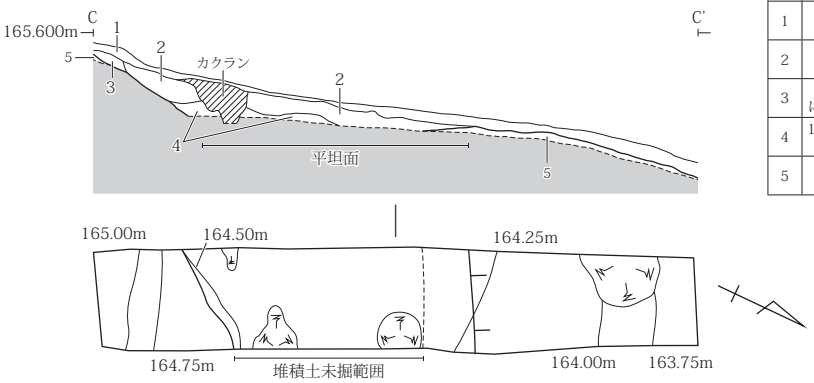
2 トレンチ



2 トレンチ南西壁断面　B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	表土（腐植土） にぶい黄褐色シルトブロック含む
2	10YR4/3 褐	シルト	黄褐色ロームブロック含む （褐色森林土）
3	10YR2/3 黒褐	シルト	褐色シルトブロック含む

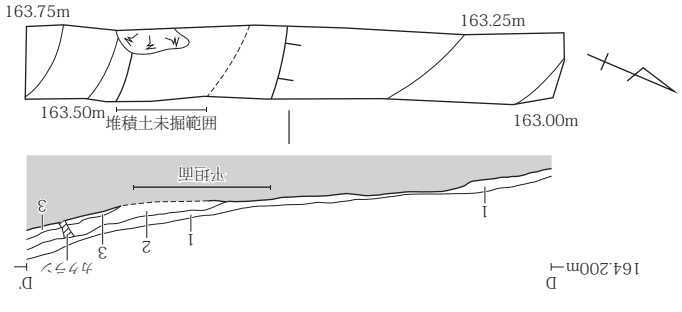
3 トレンチ



3 トレンチ南東壁断面　C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	表土（腐植土）
2	10YR4/2 灰黄褐	シルト	黄褐色シルトブロック少量
3	10YR6/4 にぶい黄橙	シルト	暗褐色シルトブロック含む
4	10YR4/1 褐灰	シルト	明黄褐色シルトブロック多量
5	10YR5/6 黄褐	シルト	暗褐色シルトブロック含む（漸移層）

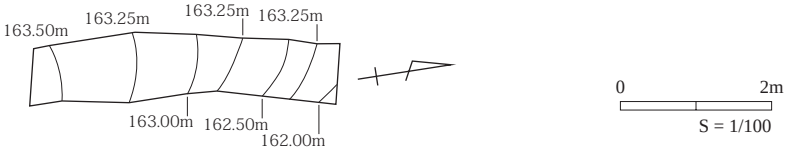
4 トレンチ



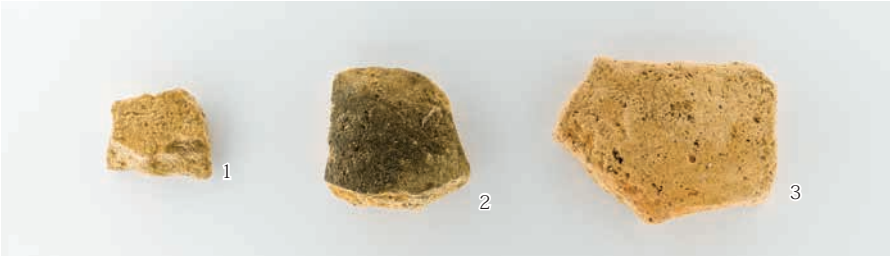
4 トレンチ南東壁断面　D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	表土（腐植土）
2	10YR4/1 褐灰	シルト	灰黄褐色シルトブロック多量
3	10YR6/6 明黄褐色	シルト	黄褐色シルトブロック多量

5 トレンチ



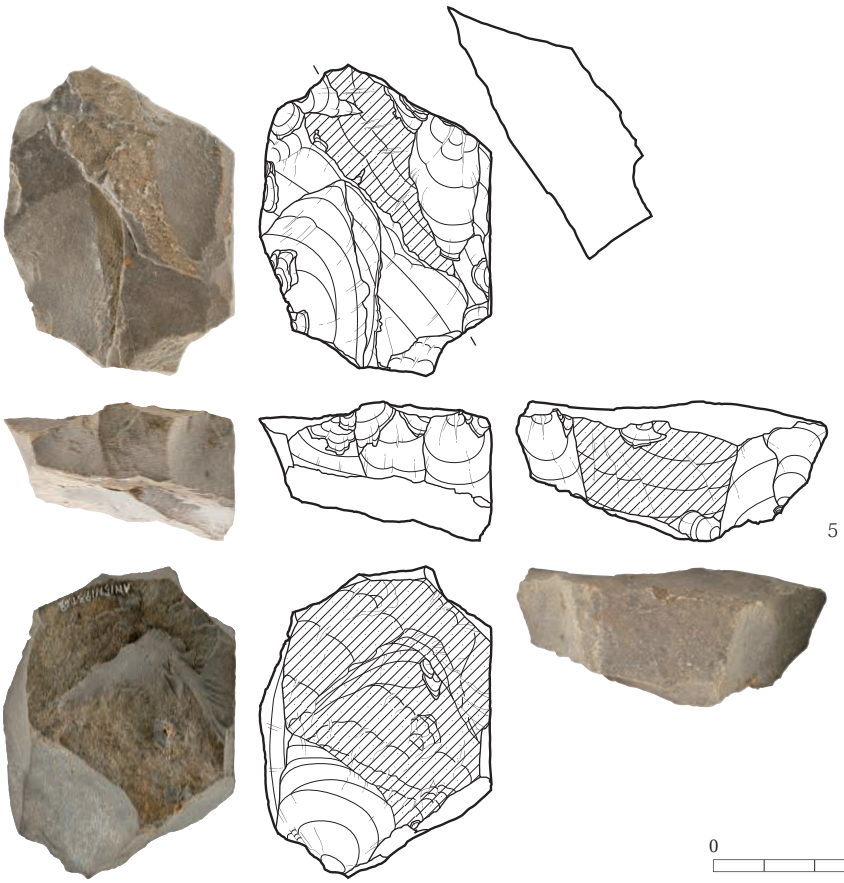
第 13 図　調査区平面・断面図



0　5cm

S=2/3

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量（cm）			残存	登録
						口径	底径	器高		
1	2T	確認面	土師器か	不明	内外面：ナデ	-	-	(1.9)	一部	AN-01
2	3T	確認面	土師器か	不明	内外面：ナデ	-	-	(2.8)	一部	AN-02
3	3T	確認面	土師器か	不明	内外面：摩滅	-	-	(3.3)	一部	AN-03



0　5cm

S=2/3

No.	遺構名	層位	種類	器種	材質	器面調整・特徴	法量（mm・g）				登録
							長	幅	厚	重量	
4	3T	確認面	石器	剥片	珪質頁岩	剥片剥離時の潰れにより打面部欠損。右側面下部に礫面残存。	31.2	37.2	4.0	5.2	AN-04
5	1T	漸移層	石器	石核	珪質頁岩	縦長剥片を連続的に剥離。打面調整。頭部調整。節理面を介した剥離事故により下部欠損。	25.2	45.6	61.2	80.5	AN-05

第 14 図　出土遺物

写真 18　1 トレンチ（南西から）

写真 19　1 トレンチ北東部（南西から）

写真 20　1 トレンチ作業風景

写真 21　2 トレンチ作業風景

写真 22　2 トレンチ（北西から）

写真 23　2 トレンチ南東部（北西から）

写真 24　2 トレンチ南東部（北西から）

写真 25　2 トレンチ土層断面（北東から）

写真 26　3 トレンチ（北から）

写真 27　3 トレンチ南部（北から）

写真 28　3 トレンチ（北西から）

写真 29　3 トレンチ土層断面（北東から）

写真 30　4 トレンチ（北から）

写真 31　4 トレンチ南部（北から）

写真 32　4 トレンチ南部（北から）

写真 33　5 トレンチ（北から）

写真 34　3 トレンチ作業風景

写真 35　4 トレンチ作業風景

写真 36　4・5 トレンチ作業風景

3．小原遺跡

調査要項（第 1 表 14）

遺 跡 名：小原（おばら）遺跡（遺跡登録番号 05126）
調査原因：太陽光発電所設置工事計画
調査箇所：蔵王町大字曲竹（まがたけ）字田中 15 の一部
調査期間：平成 27 年 12 月 14 日
対象面積：1,460m^2
調査面積：159.2m^2
調査主体：蔵王町教育委員会
調 査 員：鈴木雅
調査協力：我妻久男

遺跡の概要

松川右岸の矢附段丘面上に立地し、縄文時代・平安時代の散布地として登録されている。本遺跡では、今回調査地点の南東約 150m の地点で平成 18 年に特別養護老人ホーム建設計画に伴う遺構確認調査、平成 23 年度に特別養護老人ホーム増床事業に伴う発掘調査を実施し、平安時代の竪穴状遺構、土坑などを確認している（町 12 集）。

調査の成果

工事計画範囲の畑地にトレンチ 7 か所を設定して調査を実施した。旧地形はほぼ平坦面であり、東部は東向き緩斜面となっている。基本層序は 1 層：表土（耕作土）、2 層：黒褐色シルト（黒ボク土）、3 層：暗褐色シルト、4 層：黒褐色粘質シルト、5 層：小礫混じり黄褐色ローム、6 層：大型礫混じり黄褐色ロームである。東部では 1 層の直下が 5 層の削平面となっ

第 15 図　調査地点位置図

写真 37　調査地点遠景（東から）

写真 38　トレンチ土層断面（東から）

写真 39　トレンチ掘削状況（東から）

写真 40　トレンチ掘削状況（西から）

ており、耕作による影響が見られた。遺構確認面は 5 層上面である。調査の結果、柱穴・土坑・溝状のプランが確認されたが、いずれも堆積土が表土と同質であることから新しい掘り込みと考えられた。調査区内から遺物は出土しなかったが、縄文土器片 3 点（第 16 図 1 ～ 3）、二次加工ある剥片 1 点（第 16 図 4）が表面採集された。

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量（cm）			残存	登録
						口径	底径	器高		
1	-	表面採集	縄文土器	不明	外面：縄文 LR　内面：ナデ　胎土に繊維混入	-	-	(1.8)	一部	AC-01
2	-	表面採集	縄文土器	不明	外面：摩滅　内面：ナデ	-	-	(2.5)	一部	AC-02
3	-	表面採集	縄文土器	不明	外面：縄文　内面：ナデ	-	-	(2.0)	一部	AC-03

No.	遺構名	層位	種類	器種	材質	器面調整・特徴	法量（mm・g）				登録
							長	幅	厚	重量	
4	-	表面採集	石器	二次加工ある剥片	玉髄	両側縁の両面に二次加工。下半部（末端側）折損。	17.1	21.0	7.9	2.5	AC-04

第 16 図　出土遺物

第４章　総括

１．本書では、平成 27 年度に実施した埋蔵文化財保存協議の概要と、これに伴って実施した発掘調査のうち、下記の調査について報告した。

（１）各種開発事業と遺跡の関わりの詳細を確認する目的で実施した遺構確認調査（3 遺跡 3 件）

２．遺構確認調査では、下記のことが明らかになった。

（１）西屋敷遺跡

集落道路改良工事予定地は小規模な埋没谷地形に面した緩斜面に立地する。調査の結果、時期不明の溝跡 1 条、土坑 7 基、柱穴 7 か所を確認した。遺物は出土しなかった。

（２）古峯神社古墳

作業道建設工事予定地は丘陵尾根上に立地し、現況で確認できる墳丘裾部の外周にあたる。調査の結果、墳丘西～北側の裾部が地山削り出しによって構築され、外周に平坦面が設けられていた可能性が考えられた。遺物は遺構確認面から土師器、剥片、地山漸移層から石核が出土した。

（３）小原遺跡

太陽光発電所設置工事予定地は段丘平坦面に立地する。調査の結果、遺構は確認されなかった。遺物は縄文土器、二次加工ある剥片が表面採集された。

引用・参考文献

伊東信雄 1955「各地域の弥生式土器－東北－」『日本考古学講座 4』杉原荘介編　河出書房
小山正忠・竹原秀雄 1967「新版　標準土色帖（2005 年版）」農林水産省農林水産技術会議事務局監修　日本色研事業株式会社
風間観静 1983「仙台藩の街道」『宮城の研究 5　近世編Ⅲ』渡辺信夫編　清文堂
刈田郡教育会 1928『刈田郡誌』宮城県刈田郡教育会編
蔵王町史編纂委員会 1987『蔵王町史　資料編Ⅰ』
蔵王町史編纂委員会 1989『蔵王町史　資料編Ⅱ』
蔵王町史編纂委員会 1993『蔵王町史　民俗生活編』
蔵王町史編纂委員会 1994『蔵王町史　通史編』
林謙作 1962「東北地方早期縄文文化の展望」考古学研究　9-2　考古学研究会
藤沢敦 2000「阿武隈川下流域の前方後円墳（その 1）」宮城考古学　2　宮城県考古学会
細野衛 1994「土壌の分布と種類」『新版地学教育講座⑨　地表環境の地学－地形と土壌』地学団体研究会編　東海大学出版会

蔵王町文化財調査報告書（蔵王町教育委員会発行）

（1990）『堀ノ内遺跡』
第 1 集（1997）『堀の内遺跡』
第 2 集（2002）『諏訪舘前遺跡』
第 3 集（2005）『都遺跡ほか（都遺跡・窪田遺跡・新城館跡）』
第 4 集（2006）『車地蔵遺跡・鍛冶屋敷遺跡ほか』
第 5 集（2007）『中沢 A 遺跡』
第 6 集（2008）『六角遺跡－経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査－』
第 8 集（2009）『戸ノ内遺跡－経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査－』
第 9 集（2009）『青竹遺跡』
第 10 集（2011）『西浦 B 遺跡－商業施設出店計画に伴う緊急発掘調査－』
第 11 集（2011）『窪田遺跡－経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査－』
第 12 集（2011）『小原遺跡－特別養護老人ホーム増床事業に伴う緊急発掘調査－』
第 13 集（2011）『十郎田遺跡 1 －経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査－』
第 14 集（2011）『十郎田遺跡 2 －経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査－
SE66 井戸跡出土木製遺物編　附 十郎田遺跡出土木製遺物に関する自然科学的分析』
第 15 集（2012）『西屋敷遺跡－経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査－』
第 16 集（2013）『前戸内遺跡－経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査－』
第 17 集（2014）『磯ヶ坂遺跡－経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査－』
第 18 集（2014）『蔵王町内遺跡発掘調査報告書 1 （平成 18 ～ 24 年度）』
第 19 集（2014）『円田盆地の遺跡群 1 －経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査＜総括編＞－』
第 20 集（2015）『蔵王町内遺跡発掘調査報告書 2 （平成 25 年度）』
第 21 集（2016）『蔵王町内遺跡発掘調査報告書 3 （平成 26 年度）』

報　告　書　抄　録

ふりがな	ざおうちょうないいせきはっくつちょうさほうこくしょ 4
書名	蔵王町内遺跡発掘調査報告書 4
副書名	各種開発事業に伴う遺構確認調査（平成 27 年度）
巻・次	
シリーズ名	蔵王町文化財調査報告書
シリーズ番号	第 22 集
編著者名	鈴木 雅
編集機関	蔵王町教育委員会
所在地	〒 989-0892　宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦北 10　TEL 0224-33-2328　FAX 0224-33-3831
発行年月日	西暦２０１７年（平成２９年）３月２５日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
西屋敷遺跡（にしやしき）	蔵王町（ざおうまち）大字小村崎字（こむらさき）西屋敷（にしやしき）地内	43010	05196	38° 07′ 42″	140° 41′ 17″	2015.04.06 ～ 2015.04.08	107.8㎡	集落道路改良工事計画（遺構確認調査）
古峯神社古墳（こぼはらじんじゃ）	蔵王町（ざおうまち）大字平沢（ひらさわ）字屋木戸（やぎと）内（うち）・吹張（ふきはり）地内	43010	07149	38° 06′ 16″	140° 41′ 54″	2015.11.18 ～ 2015.11.19	17.1㎡	作業道建設工事計画（遺構確認調査）
小原遺跡（おばら）	蔵王町（ざおうまち）大字曲竹（まがたけ）字田中（たなか）15 の一部	43010	05126	38° 04′ 42″	140° 39′ 13″	2015.12.14	159.2㎡	太陽光発電所設置工事計画（遺構確認調査）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西屋敷遺跡	集落跡 散布地	不明	溝跡 1 条、土坑 7 基、柱穴 7 か所	なし	
古峯神社古墳	古墳	古墳	墳丘裾部・平坦面	土師器	
		不明	なし	剥片・石核	
小原遺跡	散布地	不明	なし	縄文土器・二次加工ある剥片	

要約

平成 27 年度に実施した遺構確認調査について報告した。主な成果は下記のとおり。

＜遺構確認調査＞

西屋敷遺跡　時期不明の溝跡・土坑・柱穴を確認した。遺物は出土しなかった。

古峯神社古墳　墳丘西～北側の裾部が地山削り出しによって構築され、外周に平坦面が設けられていた可能性が考えられた。遺物は遺構確認面から土師器･剥片、地山漸移層から石核が出土した。

小原遺跡　遺構は確認されなかった。縄文土器・二次加工ある剥片が表面採集された。

印刷製本仕様

製　　本：A4 判（縦）、無線（あじろ）綴じ、並製本
ページ数：38 ページ
印　　刷：表　紙　オフセット印刷、片面 4 色刷り、280 線
　　本文等　オフセット印刷、両面 4 色刷り、210 線
用　　紙：表　紙　コート 180kg（PP 貼加工）
　　本文等　マットコート 90kg
原稿形式：Adobe® InDesigh® CS5.5（7.5.3）PDF/X-1a:2001
　　（OS : Microsoft® Windows® 7 Professional）

ISSN 2188-2525

蔵王町文化財調査報告書 第 22 集

蔵王町内遺跡発掘調査報告書 4

各種開発事業に伴う遺構確認調査（平成 27 年度）

西屋敷遺跡・古峯神社古墳・小原遺跡

２０１７年（平成２９年）３月３１日　印刷・発行

編集・発行　蔵王町教育委員会

〒 989-0892 宮城県刈田郡蔵王町円田字西浦北 10
ＴＥＬ 0224-33-2328　ＦＡＸ 0224-33-3831

印刷・製本　株式会社 グラフィック

青麻山と小原遺跡遠景